



AWS Organizational Change Acceleration ("") 6-Pointフレームワーク – 3。未来を思い描く

AWS 規範ガイダンス



AWS 規範ガイド: AWS Organizational Change Acceleration (OCA) 6-Point Framework – 3. 未来を思い描く

Copyright © 2026 Amazon Web Services, Inc. and/or its affiliates. All rights reserved.

Amazon の商標およびトレードドレスは Amazon 以外の製品およびサービスに使用することはできません。また、お客様に誤解を与える可能性がある形式で、または Amazon の信用を損なう形式で使用することもできません。Amazon が所有していないその他のすべての商標は Amazon との提携、関連、支援関係の有無にかかわらず、それら該当する所有者の資産です。

Table of Contents

序章	1
対象者	3
ターゲットを絞ったビジネス成果	3
「6-Pointフレームワークガイド」について	3
3.1 戦略と計画を変更する	5
概要	5
ベストプラクティス	7
よくある質問	7
追加のステップ	7
3.2 コミュニケーション戦略と計画	9
概要	9
ベストプラクティス	10
入門	11
よくある質問	12
追加のステップ	13
3.3 エンゲージメント戦略と計画	14
概要:	14
ベストプラクティス	14
エンゲージメントプランのコンポーネント	15
ステークホルダーの分類	18
ステークホルダーの優先順位付けとマッピング	19
成功の測定	21
例	21
よくある質問	22
追加のステップ	23
3.4 トレーニング戦略と計画	25
概要:	25
ベストプラクティス	26
よくある質問	27
追加のステップ	28
3.5 リスク軽減戦略と計画	29
概要	29
ベストプラクティス	29
よくある質問	32

追加のステップ	33
3.6 スポンサーロードマップ	35
概要	35
ベストプラクティス	35
よくある質問	39
追加のステップ	40
3.7 持続可能性計画	41
概要	41
ベストプラクティス	42
よくある質問	42
追加のステップ	43
リソース	47
リファレンス	47
パートナー	47
寄稿者	49
ドキュメント履歴	50
用語集	51
#	51
A	52
B	54
C	56
D	60
E	64
F	66
G	67
H	69
I	70
L	72
M	74
O	78
P	80
Q	83
R	83
S	86
T	90
U	92

V	92
W	93
Z	94
.....	XCV

AWS Organizational Change Acceleration (") 6-Pointフレームワーク – 3。未来を思い描く

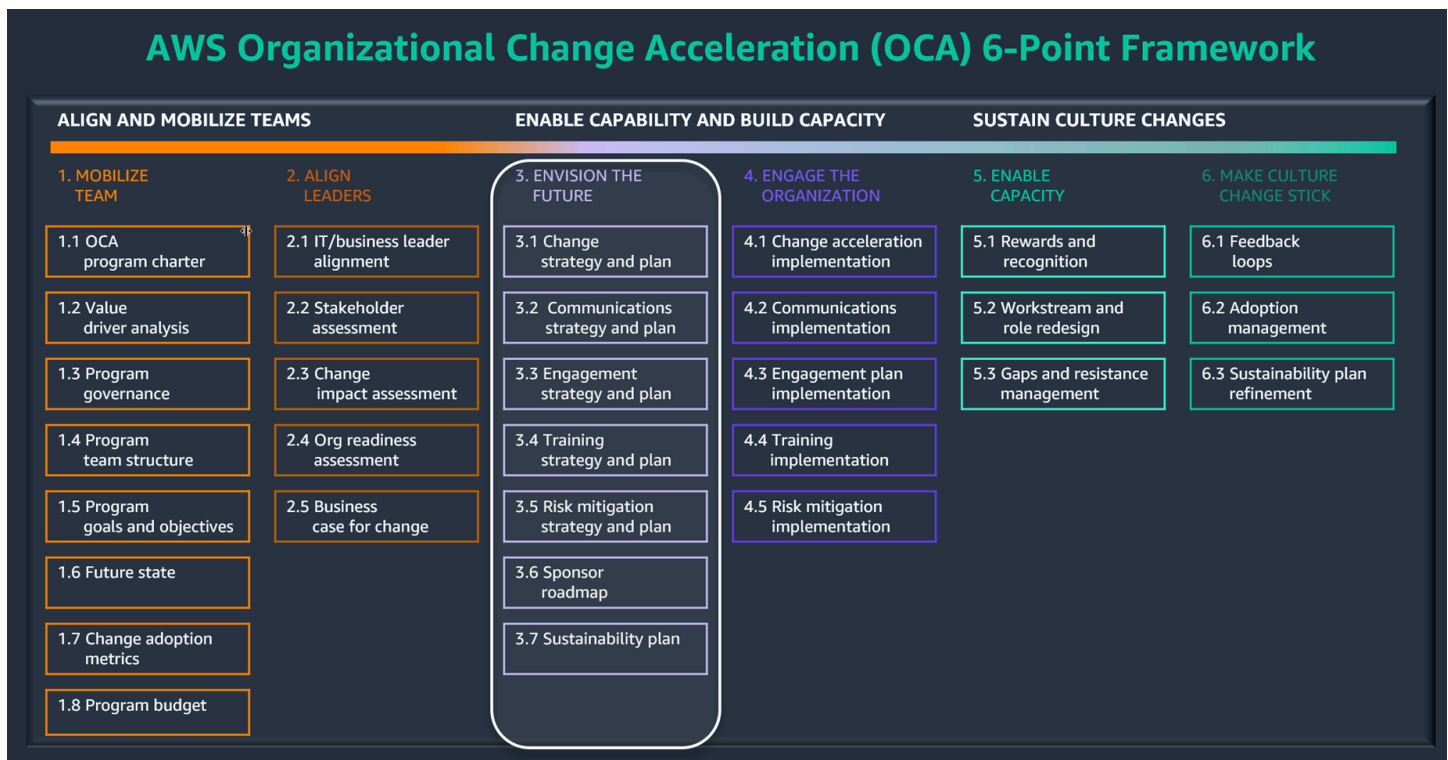
Amazon Web Services ([寄稿者](#))

2025 年 1 月 ([ドキュメント履歴](#))

AWS Organizational Change Acceleration (") の 6-Pointフレームワークは、移行、モダナイゼーション、生成 AI スケーリング、イノベーションなど、クラウドトランスフォーメーションのライフサイクル全体を通じて、人に関連する問題や課題を網羅することを目的としています。このフレームワークは、お客様が以下の方法で AWS テクノロジー、プロセス、新しい作業方法を採用するのに役立ちます。

- 主要なリーダーの特定、調整、動員。
- クラウドトランスフォーメーションにおける組織的インパクトの評価および緩和。
- 改革促進、コミュニケーション、トレーニング計画の設計
- リーダーシップ、スポンサーシップ、文化戦略の策定

フレームワークの 6 つのポイントは、プログラムの開始から持続可能な長期的変化まで、アジャイルなスプリントのケイデンスと一致しています。次の図は、これらの 6 つのポイントとそのサブポイントを示しています。



3つ目のポイントである Envision the Future は、改革促進戦略を策定し、組織の従業員とクラウド導入ジャーニーのコミュニケーション、トレーニング、エンゲージメントを計画するのに役立ちます。「未来を思い描く」には次の7つのサブポイントがあります。

- **3.1 戦略と計画を変更する**。ワークストリーム全体で完全な変化を加速するための戦略と計画を要約します。ワークストリームリードとリーダーシップ間の連携と理解を確保します。
- **3.2 コミュニケーション戦略と計画**。クラウドの未来の状態に対する認識、理解、希望を促進します。
- **3.3 エンゲージメント戦略と計画**。主要なステークホルダーと協力して、組織が定義されたクラウドの未来の状態に移行できるようにします。
- **3.4 トレーニング戦略と計画**。特定されたステークホルダーが、将来のクラウドプロセスを実装するために必要な知識、スキル、能力を得ていることを確認します。
- **3.5 リスク軽減戦略と計画**。クラウドの将来の状態に関連する人的リスクを積極的に特定し、排除または制御します。
- **3.6 スポンサーロードマップ**。スポンサーとリーダーがクラウド目標に合致し、リスクを軽減し、クラウド導入を加速するための対策を講じる責任があります。
- **3.7 持続可能性プラン**。クラウド導入の初期段階以降の望ましい将来の行動と組織構造をサポートします。

このガイドでは、Envision the Future の各サブポイントについて詳しく説明します。

対象者

このガイドでは、クラウドトランスフォーメーションの加速を担当するリーダーを対象としています。これらの推奨事項に従うことで、リスクを最小限に抑え、価値を最大化できます。

ターゲットを絞ったビジネス成果

AWS 「HIPAA 6-Point6 ポイントフレームワークの将来のビジョン化」フェーズは、次の成果につながります。

- **組織の連携:** 未来を構想することで、組織構造、事業運営、プロセス、労働力、文化の間に継続的なパートナーシップが確立されます。これにより、市場状況に迅速に適応し、新しい機会を活用できます。
- **クラウドアクセラレーション:** 未来を構想することで、現在の状態から将来の状態に移行する際に、人、文化、役割、組織構造への影響を特定して最小限に抑えることができます。これにより、新しい働き方の導入が加速されます。
- **クラウドの流畅さ:** 未来を構想することで、クラウドを効果的に活用し、ビジネス成果を加速するためのデジタル感覚が構築されます。
- **変革リーダーシップ:** 未来を構想することで、変革を推進し、成果に焦点を当てた部門横断的な意思決定を可能にするリーダーを動員します。

「" 6-Pointフレームワークガイド」について

このガイドは、プログラムおよび証拠ベースの組織改革導入フレームワークである " 6-Point Framework に関する一連の出版物の一部です。

コンテンツセットには、クラウドトランスフォーメーションを加速するために設計された包括的なテンプレート、ガイドライン、サポートアーティファクト、評価、アクセラレーター、ツールのセットが含まれています。概要から始め <https://docs.aws.amazon.com/prescriptive-guidance/latest/strategy-ocm/> でフレームワークとその6つのポイントを理解し、各ポイントの詳細な議論については以下の個別ガイドを参照することをお勧めします。

1. [チームの準備](#)
2. [リーダーの連携](#)

3. 未来を構想する (このガイド)
4. [組織を関与させる](#)
5. [能力を発揮させる](#)
6. [文化の変化を定着させる](#)

クラウドトランスフォーメーション戦略、ガイド、リソースの包括的なセットについては、[「クラウドトランスフォーメーションの加速」](#)を参照してください。

3.1 戦略と計画を変更する

概要

改革促進戦略と計画は、クラウドトランスフォーメーションの適切なタイミングで適切な変革戦術を適切な人材に提供するための構造化されたアプローチを提供します。これにより、クラウドによって導入された変更が最小限の中断と最大の結果で受け入れられます。この戦略では、組織が運用、テクノロジー、構造、プロセスの変化にどのように対処し、変革全体の意思決定にどのように役立つかを概説します。

Accenture の [Modern Cloud Champions](#) の調査によると、変化の人的側面を効果的に管理する組織は、プロジェクト目標を達成または上回る可能性が 6 倍高くなります。適切に設計された変更戦略は、大きなメリットをもたらすことができます。次のことができます。

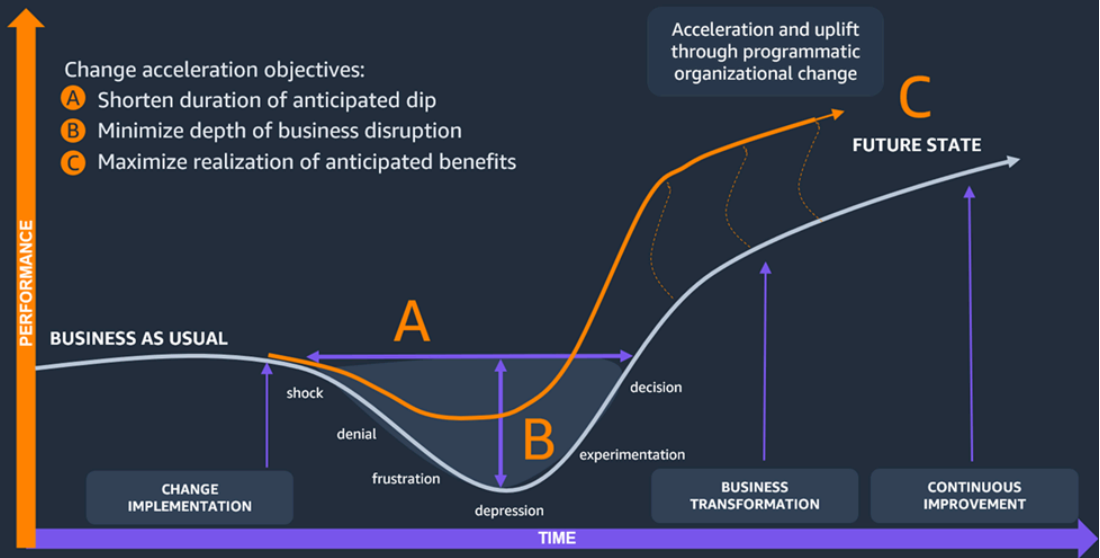
- リスク、パフォーマンスの低下、ビジネスの中断を最小限に抑えます。
- ビジネス継続性を確保し、カスタマーサービスレベルを維持します。
- リーダーシップの連携とコミットメントを確保する。
- 影響を受けるすべての対象者に変更に備えます。
- 文化の変革と新しい働き方を育みます。
- ステークホルダーの意識、エンゲージメント、理解を高める。
- 継続的な成功と適応性のために組織を配置します。

新しいシステムや戦略は、組織に大きな混乱をもたらす可能性があります。適切に策定された戦略は、プロジェクトや変化に命を吹き込み、それが組織内でどのような影響を与えるか、どのように影響するかを説明します。次の図に示すように、認識と生産性のギャップを最小限に抑えます。

Minimize gap in perception and productivity

Organizational Change Acceleration (OCA) minimizes the gap in perception and productivity.

It provides a structured approach to ensure that changes are thoroughly and smoothly implemented so that lasting benefits of change can be realized.



[Accenture の研究](#)では、クラウドトランスフォーメーションにおけるテクノロジーと同程度に人々を重視すると、大幅な改善につながるということが明らかになりました。彼らの研究では、このアプローチは以下をもたらしました。

- 組織の俊敏性とイノベーションが 2.2 倍向上
- 2.2 倍強力なビジネスおよび IT コラボレーション
- クラウド移行を 1.9 倍高速化
- カスタマーエクスペリエンスが 1.7 倍向上
- 1.7 倍のコスト削減を実現
- 1.7 倍のスピードまたは効率で新しい事業部門を立ち上げる
- クラウド導入が 1.6 倍に増加
- 意思決定のためのデータの 1.4 倍の使用

プログラムの開始時に改革促進戦略を策定し、プログラム全体の主要なマイルストーン、フェーズ、リリース、エピックで付随する計画を作成、レビュー、更新する必要があります。"には、パートナー間の高度な統合が必要です。戦略を成功させるには、人事 (HR)、クラウドトランスフォーメーションチーム、エグゼクティブスポンサー、リーダーシップ、外部ベンダー、その他の関連パートナーの間で効果的なパートナーシップを確立し、維持する必要があります。

ベストプラクティス

改革促進戦略の主なベストプラクティスは次のとおりです。

- 変更戦略をクラウドトランスフォーメーションの戦略的ビジョンやビジネスケースに合わせ、重点を置き、一貫性を高めます。
- 計画プロセスの早い段階で主要なリーダーとステークホルダーにインタビューし、インサイトを得て、賛同を得ます。
- プログラム全体でステークホルダーの連携を定期的に評価し、継続的なサポートを確保します。
- さまざまなパートナーを統合して、組織全体で一貫した目標、スケジュール、動機を確保します。
- 人事、トレーニング、財務、部門横断的なリーダーなどの機能を有効にして、専門知識とリソースを活用します。
- 新たな課題や機会に適応できる柔軟な戦略を策定します。
- メトリクスを組み込み、変更イニシアチブの有効性を測定します。

よくある質問

Q. このアクティビティには誰が関与すべきですか？

A. このアクティビティは、エグゼクティブスポンサー、プロジェクトリーダー、変更リーダー、内部変更チームの連絡担当者、内部コミュニケーション、人事と行う必要があります。

Q. 変更戦略と計画へのインプットは何ですか？

A. 主なインプットには、戦略的ビジョン、[改革のためのビジネスケース](#)、発見ドキュメント、"プロジェクト憲章、[ステークホルダーの評価](#)、リーダーシップのインタビュー、内部改革リーダーシップ (利用可能な場合)、内部コミュニケーション (可能な場合) が含まれます。

Q. 改革促進戦略と計画はいつ作成すべきですか？

A. プログラムの開始時に戦略の設計を開始します。プログラム内の主要なマイルストーン、フェーズ、リリース、エピックで、付随する計画を作成、レビュー、更新します。

追加のステップ

改革促進戦略と計画の構築を開始するには、次の手順に従います。

1. 戦略的ビジョンとビジネスケースを確認して、整合性を確保します。
2. 検出評価の結果と出力を分析します。
3. 組織の準備状況評価を確認して、ギャップと機会を特定します。
4. エグゼクティブスポンサー、移行チームのリーダーシップ、社内コミュニケーション、人事にインタビューします。
5. 既存の内部変更方法論 (該当する場合) と戦略を一致させることを検討してください。
6. 戦略開発の指針となる " " の目標と目的を活用します。
7. 定義された将来の状態の検出結果を戦略に組み込みます。
8. 改革促進ガバナンスとプロジェクトチームの構造を確立します。
9. 包括的な改革促進戦略を策定します。
10. リーダーシップチームと戦略を確認して検証し、賛同を得ます。
11. 最終的な変更促進戦略のサインオフを取得します。

これらの主要な要素とベストプラクティスに焦点を当てることで、クラウドの導入を加速し、ビジネス価値を最大化し、変革ジャーニーに参与するすべての利害関係者のスムーズな移行を確保する、組織のための堅牢な変革戦略を開発できます。

3.2 コミュニケーション戦略と計画

概要

デジタルトランスフォーメーションが組織に影響を与え始め、リーダーシップレベルに含まれなくなると、コミュニケーションの危険が高まります。変更ケースに関するメッセージングを強化し、コミュニケーションを配信および受信するための対象者と適切なチャネルを定義するマイルストーン計画を作成する必要があります。コミュニケーション戦略の事前設計では、対象者、伝える必要があるメッセージ、対象者メンバーがそれらのメッセージを受信する場所、影響とアクションの呼び出しが明らかになるタイミング、コミュニケーションの到達と有効性のモニタリングと測定方法を定義します。

計画段階の早い段階では、コミュニケーション戦略の策定が重要であり、その実装が、移行がどの程度受け取られ、対象者が行動を採用するかを決定する要因となる可能性があります。例えば、チームメンバーはデータセンターの終了を認識して準備していますか？ マネージャーは、従業員のスキル向上計画をサポートする計画を立てることができるタイミングを把握していますか？ クラウド導入が停止または停止した場合の対応はリーダーにとって明確ですか？

コミュニケーション戦略の目的は、クラウドトランスフォーメーションの過程で、適切なメッセージを適切な人物に適切なタイミングで配信するための、慎重に構造化されたアプローチを提供することです。コミュニケーション戦略とコミュニケーションプランには微妙な違いがあります。Amazon Web Services (AWS) でこれらのドキュメントを定義する方法は次のとおりですAWS。

- コミュニケーション戦略 – 組織のアウトリーチおよびコミュニケーション活動の目標と方法を示すドキュメント。
- コミュニケーション計画 – 戦略に対処し、戦略に記載されている目的を達成するコミュニケーション活動に関する詳細情報。このプランでは、配信日、対象者、詳細なメッセージ、メディアタイプ、作成者、承認者、メッセージャーなどの情報を含む各アクティビティについて説明します。

効果的なコミュニケーション戦略と計画は、大きなメリットをもたらすことができます。次の操作が可能です。

- 組織全体でクラウドトランスフォーメーションに対する認識と理解を高めます。
- ステークホルダーを変革のビジョン、目標、進捗状況に合わせます。
- 懸念に対処し、利点を強調することで、変更への抵抗を軽減します。
- 新しいプロセスとテクノロジーの導入を加速します。

- トランスフォーメーション全体で従業員のエンゲージメントと意欲を向上させます。
- リーダーシップと従業員間の信頼と透明性を強化します。
- 新しい作業方法へのスムーズな移行をサポートします。

一連のドキュメントと評価は、コミュニケーション戦略と計画の基盤を理解するのに役立ちます。主な入力と出力をいくつか示します。

入力	出力
戦略的ビジョン	コミュニケーションの指針の原則
ビジネスケース	メッセージ識別
ステークホルダーの評価	ステークホルダーの優先順位付けマトリックス
コミュニケーション方法の評価	車両とメディアの分析
変更の影響	コミュニケーションマトリックス
クラウドトランスフォーメーションのマイルストーンとステータスの更新	コミュニケーションアクティビティ (作業計画とアプローチ)

ベストプラクティス

- 早めに開始します。クラウドトランスフォーメーションの初期計画段階でコミュニケーション戦略と計画を立てます。
- コミュニケーションプロセスを理解し、それに従って、重要なメッセージングとコミュニケーションアクティビティを最適に設計します。
- 主要な利害関係者との一連のインタビューを調整して、計画に必要なコミュニケーションのレベルを特定します。
- コミュニケーションを主要なプロジェクトのマイルストーンや決定ポイントと調整し、時間を決めます。
- さまざまなコミュニケーションチャネルを使用して、さまざまな対象者に効果的にリーチします。
- ニーズと関心に基づいて、さまざまなステークホルダーグループのメッセージをカスタマイズします。

- 双方向通信を奨励します。変換プロセス全体でフィードバックと対話の機会を作成します。
- コミュニケーションの有効性を定期的に評価し、必要に応じて戦略を調整します。

入門

コミュニケーション戦略を作成するには、クラウドトランスフォーメーションの戦略的ビジョン、[ビジネスケース](#)、[ステークホルダー](#)の評価から直接情報を得たコミュニケーションニーズ評価から始めます。

コミュニケーション開発プロセスは、次のステップで構成されます。

1. コミュニケーションのニーズを評価します。
2. コミュニケーション戦略と計画を立てます。
3. コミュニケーションを開発します。
4. コミュニケーションコンテンツを検証します。
5. コミュニケーションを分散します。
6. フィードバックを集めます。
7. 効果を測定します。

コミュニケーション戦略には、次のコンポーネントが含まれます。

コンポーネント	説明
コミュニケーションの目的	デジタルトランスフォーメーションまたは移行全体で効果的にコミュニケーションを取ることの理論的根拠と重要性。
コミュニケーションの指針の原則	通信で観察するコア値。例えば、率直、正直、オープンであり、整合性を示します。
通信車両	通信に使用するチャネル。例えば、ウェブサイト、ブログ投稿、動画、ブログ、ソーシャルメディアメッセージ、Eメール、オンラインニュースレターなどです。

コンポーネント	説明
主要なコミュニケーションメッセージング	プロジェクトステータスの発表、主要なマイルストーンの達成事項、変更の理由を説明する初期メッセージ。
対象者とステークホルダー	エンドユーザー、サプライヤー、企業リーダー、IT マネージャーとスーパーバイザー、ビジネスリーダー、一般視聴者、運営委員会、クラウド移行チーム、変革管理オフィスなど。
コミュニケーションアプローチと作業計画	プランに組み込まれているすべてのコミュニケーションアクティビティの視覚的表現。
組織の役割と責任	エグゼクティブスポンサー、運営委員会のメンバー、プロセス所有者、チャンピオン、プロジェクトチーム、内部コミュニケーションチーム、人事チームのコミュニケーション関連のタスクと職務。

Note

組織によっては、コミュニケーション戦略にコンポーネントを追加することもできます。

よくある質問

Q: コミュニケーション戦略と計画はいつ使用すべきですか？

A. コミュニケーション戦略と計画を策定することは重要であり、これらをどの程度適切に実装するかが、組織が移行をどの程度受け止め、目標行動を採用するかを決定する要因になる可能性があります。コミュニケーション戦略と計画の取り組みは、クラウドトランスフォーメーションプロジェクトの開始時から始まります。通常は、プロジェクトの目標と予備的なマイルストーンが確立されるとすぐに開始されます。このフェーズでは、ギャップ、変更の影響、移行の影響を受けるチームや従業員が特定されます。コミュニケーション戦略を策定するときは、組織内のコミュニケーションプロセスに従って、クラウドメッセージングとアクティビティを最適に設計してください。

Q. 関係者は誰ですか？

A. エグゼクティブスポンサー、デジタルトランスフォーメーションリーダー、社内コミュニケーション、人事チームは、通常、コミュニケーション戦略と計画の作成に関与しています。

Q. コミュニケーション戦略と計画へのインプットは何ですか？

A. 入力には、戦略的ビジョン、ビジネスケース、ステークホルダーの評価、コミュニケーション方法の評価、変更の影響、クラウドトランスフォーメーションのマイルストーンとステータスの更新が含まれます。

Q. コミュニケーション戦略と計画の成果は何ですか？

A. 出力には、コミュニケーションの指針の原則、メッセージ識別、ステークホルダーの優先順位付けマトリックス、方法とメディアの分析、コミュニケーションマトリックス、コミュニケーション活動 (作業計画とアプローチ) が含まれます。

追加のステップ

コミュニケーション戦略と計画の作成を開始するには、以下のタスクを完了します。

1. ビジネスケースやステークホルダーの評価など、検出ドキュメントから情報を収集します。
2. エグゼクティブプロジェクトのスポンサーおよびプロジェクトリーダーシップチームとのインタビューを実施します。
3. 内部コミュニケーションチームとのインタビューを実施します。
4. HR とのインタビューを実施して、将来の役割に対する潜在的な影響を理解します。
5. 機能プロセスエリアリーダーとのインタビューを実施します。
6. 販売などの外向きのグループとのインタビューを実施します。
7. すべてのドキュメントと情報を評価し、必要に応じて主要な利害関係者にフォローアップします。
8. コミュニケーション戦略デッキを構築します。

これらの重要な要素とベストプラクティスに焦点を当てることで、クラウドトランスフォーメーションジャーニーをサポートし、ステークホルダーを効果的に関与させ、新しい働き方の導入を促進する包括的なコミュニケーション戦略と計画を立てることができます。

3.3 エンゲージメント戦略と計画

概要:

エンゲージメント戦略と計画は、個人、ステークホルダーグループ、または組織がクラウドトランスフォーメーションによって引き起こされる変化に対処する具体的な方法を説明する体系的なアプローチを概説しています。エンゲージメントプランの主な目的は、すべての主要なステークホルダーがクラウドトランスフォーメーションの望ましいビジネス成果にコミットし、それに集中し続けることです。ステークホルダーを特定し、変更プロセス全体で適切に関与させることは、プロジェクトを成功させるために不可欠です。

エンゲージメント戦略と計画により、クラウドトランスフォーメーションチーム内外の関与が強化されます。これにより、適切な人が適切な情報を受け取り、適切なタイミングと方法で参加できるようになります。これらは強制関数として機能し、各ステークホルダーグループが過負荷を避けるために経験する必要がある変化のペースと量を積極的に管理します。

効果的なエンゲージメント戦略と計画は、大きなメリットをもたらすことができます。次の操作が可能です。

- クラウドトランスフォーメーションへのステークホルダーの賛同とコミットメントを高めます。
- プロセスの早い段階で潜在的な障害を特定して軽減します。
- 変更のための組織の機能を強化します。
- クラウド導入への移行を成功させる可能性を最大化します。
- さまざまなステークホルダーグループ間の調整を改善します。
- 意思決定プロセスを加速します。
- コラボレーションと責任共有の文化を育みます。

ベストプラクティス

エンゲージメント戦略と計画はステークホルダーを積極的に関与させ、潜在的な障害の特定、管理、回避に役立ちます。これらのドキュメントは、クラウドトランスフォーメーションのための追加の組織の賛同、コミットメント、機能をもたらす、クラウド導入を成功させる可能性をさらに最大化します。

このアクティビティの " チームの目標は、次のとおりです。

- ステークホルダーの立場を決定し、クラウド移行のビジョンに沿った方法でステークホルダーに影響を与えるエンゲージメント計画を作成します。
- 強力なリーダーシップの連携とサポートを確保します。
- 人事および社内の変更チームと協力して、過去に使用された組織の変更プラクティスを理解します。

エンゲージメントプランのコンポーネント

次の図は、エンゲージメント戦略と計画の主要なコンポーネント、各コンポーネントの動作、対象者を示しています。



次の表に、各コンポーネントに関する詳細情報を示します。

コンポーネント	アクティビティ
リーダーシップの連携とスポンサーシップ	<ul style="list-style-type: none"> • IT ビジョンをビジネスチームと共有し、強化します。 • コミュニケーションと対話の運用のリズムを確立します。

コンポーネント	アクティビティ
	<ul style="list-style-type: none"> • イン트라ネットサポートの割り当て (ブログなど) を指定します。 • イベントを計画する (ビジネススピーカーの準備など)。 • リーダーシップ会議で定期的に最新情報を提供します。 • 成功を伝えて称賛します。 • 新しい改善イニシアチブを特定します。 • 優先順位を調整します。
IT 教育と開発	<ul style="list-style-type: none"> • 以下を含むリッチで協力的なコンテンツをイン트라ネットに提供します。 <ul style="list-style-type: none"> • リーダーブログ、ディスカッションフォーラム、記事、外部サイト、専門団体、ニュース、ケーススタディ • 実践コミュニティ • 以下を含む教育資料を作成します。 <ul style="list-style-type: none"> • 音声による高速でアニメーション化された e ラーニング • 機能関連の教育概念、ケーススタディ、アプリケーションアクティビティ <p>IT リーダーは、トレーニングの 48 時間前に資料とコーチングキットを受け取る必要があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • VP VPs。

コンポーネント	アクティビティ
特殊なコミュニケーション	<ul style="list-style-type: none"> • 以下を通じて IT ビジョンを起動します。 <ul style="list-style-type: none"> • IT コミュニティとのウェブ会議 • 最高技術責任者 (CTO) によるイントラネットでのビデオ紹介 • IT およびビジネスディスカッションフォーラムで求められたコメント • イントラネットの発表、Eメール、タウンホール、電話会議、ウェブ会議を通じて、進捗状況に関する一般的な最新情報を提供します。 • 成功事例とクイックウインを共有します。 • コミュニケーション、学習、コミュニティ構築を促進するためのロードショーを開催します。
改善イニシアチブ	<ul style="list-style-type: none"> • 特定の期間とスケジュールされた頻度で、組織全体の学習時間を確立します。 • エンタープライズトランスフォーメーションに固有のまったく新しい報酬および表彰プログラムを起動します。

各コンポーネントには、以下のアクティビティを含む継続的な変更促進モニタリングも含まれています。

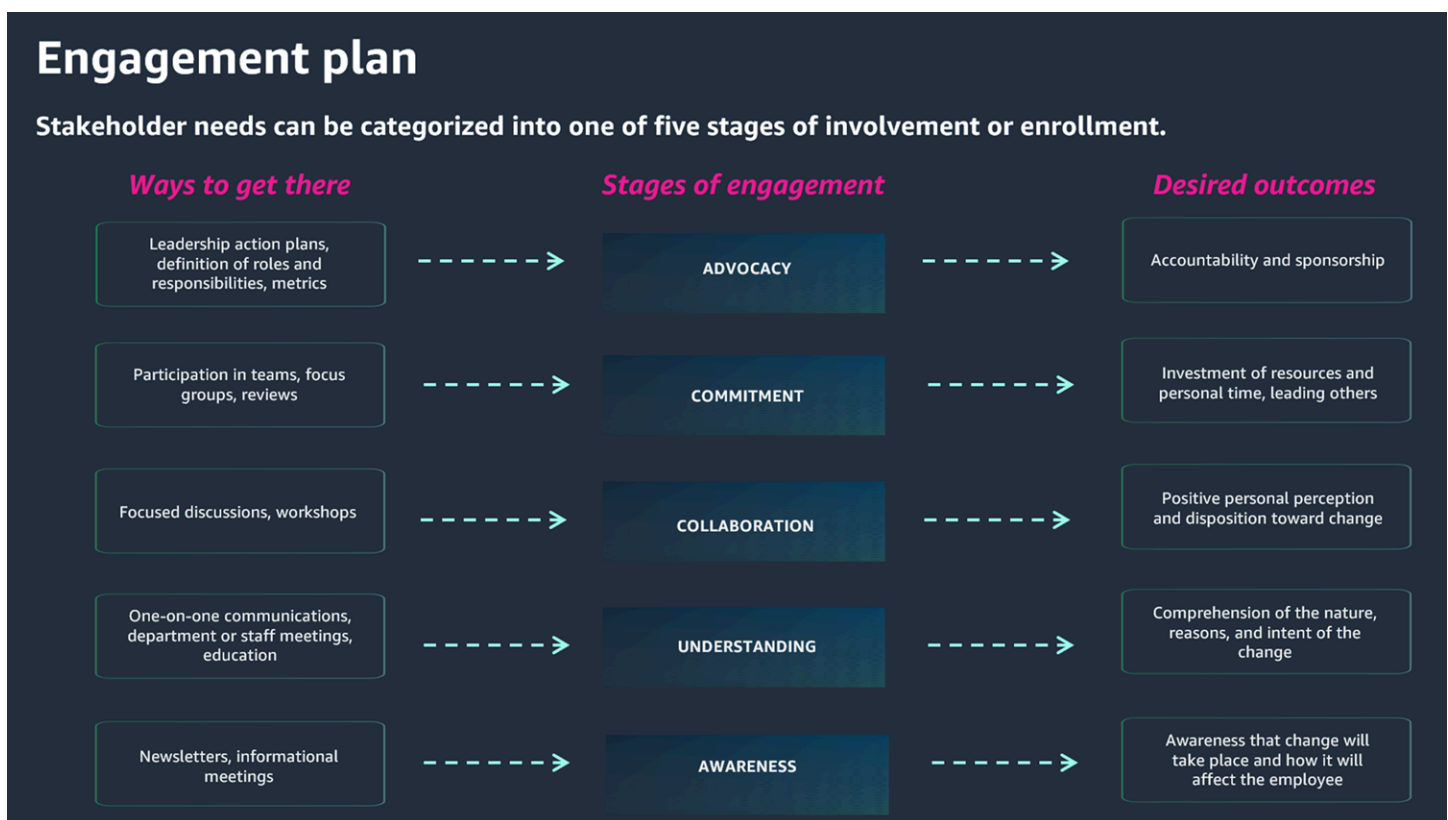
- 変化の認識、理解、受け入れをモニタリングして測定します。
- プログラム全体の進捗状況と有効性を測定します。
- 変更計画とイニシアチブ計画を策定、実施、改善します。
- 変更を可能にする新しいイニシアチブを特定します。

ステークホルダーの分類

計画を立てたら、各ステークホルダーを関与または関与の5つの段階(最も関与の少ないものから最も関与の少ないものまで)のいずれかに配置します。

- 認識: ステークホルダーは、変更の目的と進行状況を認識し、理解しています。
- 理解: ステークホルダーは、変化のメリットと影響を十分に理解しています。
- コラボレーション: ステークホルダーは変更をサポートし、価値があると考え、求められたら行動します。
- コミットメント: ステークホルダーは積極的にコミュニケーションをとり、変更をサポートするために必要なアクションを実行します。
- アドボカシー: ステークホルダーはイニシアチブを所有し、パフォーマンスの向上と維持に取り組んでいます。

次の図は、これらのステージと期待される成果を達成する方法を示しています。



各ステージには、次の図に示すように、組織を効果的に関与させるための独自のコミュニケーション目標とメカニズムが必要です。

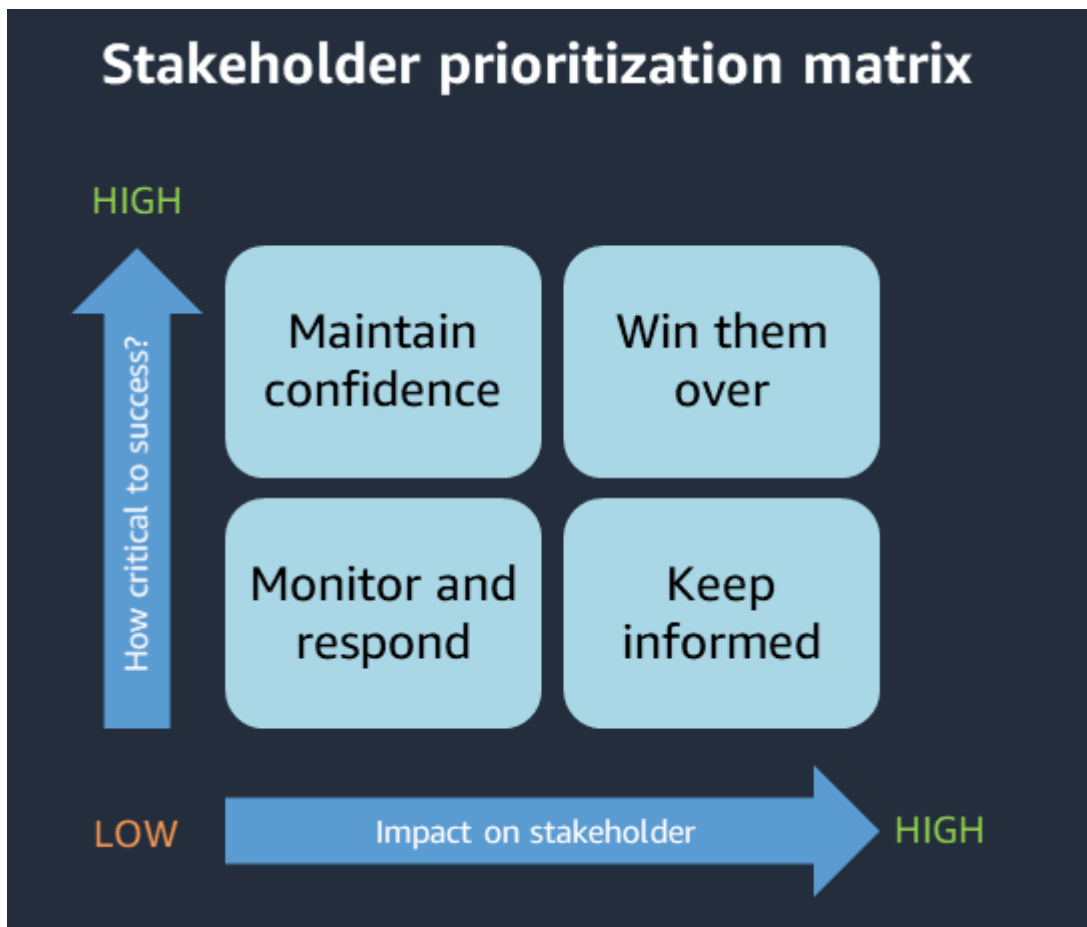
Engagement and communications

Five stages of stakeholder engagement. Each stage requires different communication objectives and channels.

	DEFINITION	OBJECTIVES OF COMMUNICATION	PROOF OF SUCCESSFUL COMMUNICATION	COMMUNICATION APPROACH
ADVOCACY	Stakeholders own initiatives and work to improve and sustain performance.	Feel, behave, and act self-directed as a change agent.	Actively supports change by living new processes; supports knowledge transfer.	Round table, project, presentations, and discussion of project results.
COMMITMENT	Stakeholders proactively communicate and take actions required to support the change.	Attain full commitment and encourage action.	Acts as business or communications advisor; supports change.	Participation in teams, focus groups, and reviews.
COLLABORATION	Stakeholders support the change, believe it is worthwhile, and would act if prompted.	Enroll individuals, gain support and personal buy-in.	Can explain project x; allocates time for interviews or meeting workshops; mobilizes peers.	Focused discussions, workshops, interviews, phone calls, executive letters, and presentations.
UNDERSTANDING	Stakeholders have a sound understanding of the benefits and implications of change.	Understand <i>why</i> change is happening and <i>how</i> it will happen.	Knows change imperative of project x, content and phases of x, and rollout milestones and deliverables.	One-to-one communications, department or staff meetings.
AWARENESS	Stakeholders are aware and understand the purpose and progress of change.	Understand <i>what</i> is happening, and <i>when</i> it will happen.	Associates project x with xyz program.	Broad-based communications, newsletters, emails, informational meetings.

ステークホルダーの優先順位付けとマッピング

ステークホルダーの優先順位付けとマッピングは、[ステークホルダーの評価](#)を行った後に行う必要があります。" チームは、これらの利害関係者との強力な関係を構築して維持する必要があります。チームは、次のマトリックスを使用し、トランスフォーメーションの成功とステークホルダーへの影響度の重要性に基づいて、ステークホルダーを適切な四角形に配置できます。このマッピングの後、" チームは関係を構築して維持するための戦略を立てることができます。



四分円は次のとおりです。

- モニタリングして応答します。この四分円のステークホルダーは、大きな影響も変更の影響も受けませんが、結果には影響します。これらの利害関係者は最小限のコミュニケーションアクティビティを必要とし、通常、大量のコミュニケーションで十分です。主な目的は、問題を回避するためにフィードバックを監視することです。
- 常に情報を入力してください。この四分円のステークホルダーは、変換の出力の大きな影響を受けますが、他の人への影響が少なく、プロセスを中断する可能性が低くなります。これらの利害関係者とのコミュニケーションは、積極的に先制的である必要があり、より影響力のある利害関係者(他の四角形から)は受け入れに影響を与える必要があります。
- 信頼を維持します。このクアドラントのステークホルダーは、他のユーザーに大きな影響を与えるため、プロセスを中断する可能性があります。このため、コミュニケーションを計画する際は、目標や副作用を予測することが重要です。このグループに対するプロジェクトの影響は小さいため、開発に含める必要はほとんどありません。コミュニケーションはサポートを維持し、拡大することを目指す必要がありますが、次の四分円ほどリソースを大量に消費したり、頻繁に使用したりする必要はありません。これは、行動を変更する必要性が低いためです。

- 勝ち取ってください。この四分円のステークホルダーは影響力が高く、変換作業の成果は将来の作業プロセスと行動に大きな影響を与えます。このグループがプロジェクトを中断する可能性は非常に高い可能性があります。コミュニケーションに巻き込み、アライとして維持または開発し、頻繁な個人的接触やface-to-faceコミュニケーションを強調します。

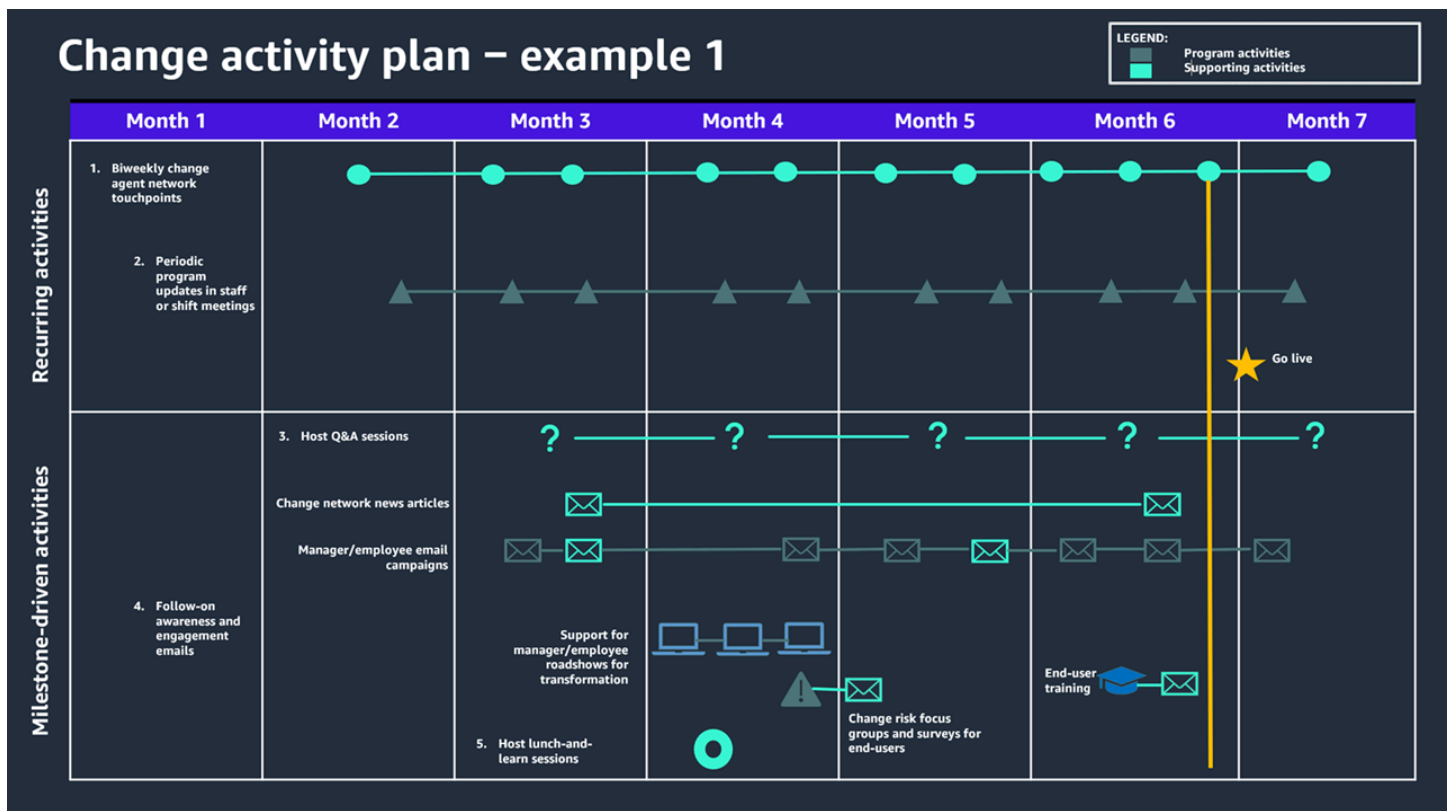
成功の測定

エンゲージメントアクティビティ、計画、戦略の成功を測定することは、クラウドトランスフォーメーション全体の成功にとって不可欠です。計画の成功を評価するために使用できるメカニズムと測定値を次に示します。

- 変更準備状況調査 (チャンピオンとエンドユーザー)
- アクセラレーションスコアを変更する
- 準備セッションと準備セッション (評価)
- トレーニング評価
- 出席レポートとカリキュラムの完了
- 実装 (go または no-go) の決定

例

次の図は、エンゲージメント戦略と計画から導き出される変更アクティビティ計画の例を示しています。



Change activity plan – example 2

ID #	Change activity	Description	Tools provided	Approximate timing	Frequency
1. ●	Change touchpoints	<ul style="list-style-type: none"> Discuss good practices for information sharing, what's working, and what could be improved; note change risks. Assist change team that is developing solutions to change risks. 	Planned touchpoints	Beginning on date x/y	Biweekly or as needed
2. ▲	Staff or shift meeting updates	<ul style="list-style-type: none"> Provide update on current project activities and upcoming events. Answer questions of end-user constituents. 	Project update content	ASAP after kickoff	Biweekly or as needed
3. ?	Hosted Q&A sessions and office hours	<ul style="list-style-type: none"> Host Q&A sessions on location for leaders, managers, and employees to answer questions about the IT cloud and to share information about the program. Make certain hours of the week available for people to contact you with questions about the program or their responsibilities. 	FAQ	October	Monthly or as needed
4. ✉	Awareness and engagement email communications	<ul style="list-style-type: none"> Provide informal communications to the network after large project milestones to drive awareness. For example: <ul style="list-style-type: none"> Drive traffic to the Ask IT cloud site for information, FAQ Drive traffic to the IT network news articles when published 	Templates	Milestone-driven	As needed
5. ○	Lunch and learn discussions	<ul style="list-style-type: none"> Host information session to provide an overview of what is changing. 	Overview material	November	1-2 times before go-live
6. N/A	Ad-hoc Q&A	<ul style="list-style-type: none"> Be available to answer questions as they come up. Funnel questions to change team or IT OpEx team if answers are unknown. 	FAQ	As needed	As needed

よくある質問

Q. エンゲージメント戦略と計画が重要なのはなぜですか？

A. これらの成果物は、クラウドトランスフォーメーションチーム内外の関与を高め、適切な人材が適切なタイミングで適切な情報を受け取れるようにし、各ステークホルダーグループのペースと変化量をプロアクティブに管理します。ステークホルダーを積極的に関与させることで、潜在的な障害を特定、管理、回避し、クラウドトランスフォーメーションのための組織のコミットメントと能力を向上させることができます。

Q. いつ使用しますか？

A. ステークホルダーの評価、変更戦略と計画の作成、コミュニケーション戦略と計画の策定という準備作業を完了したら、エンゲージメント戦略と計画を使用します。これらのドキュメントは、継続的なサポートを促進し、利害関係者の影響を活用できます。

Q. このアクティビティには誰が関与すべきですか？

A. 参加者には、エグゼクティブスポンサー、クラウドリーダー、ITリーダー、人事リーダー、チームアーキテクト、データリーダー、セキュリティリーダー、オペレーションリーダー、トレーニングリーダー、財務リーダー、インフラストラクチャリーダー、事業部門リーダー、社内コミュニケーションチームを含める必要があります。

Q. この戦略と計画へのインプットは何ですか？

A. インプットには、戦略的ビジョン、ビジネスケース、移行準備評価 (MRA) のアウトプット、人材促進プロジェクト憲章、ステークホルダー評価 (分析)、エグゼクティブスポンサー、人事、移行リーダーシップへのインタビュー、社内改革リーダーシップ (利用可能な場合) と社内コミュニケーションチーム (利用可能な場合) からのインプットが含まれます。

Q. このアクティビティの出力は何ですか？

A. このアクティビティの成果は、承認されたエンゲージメント戦略と計画です。

追加のステップ

エンゲージメント戦略と計画を作成するには、次の手順に従います。

1. 戦略的ビジョンとビジネスケースを確認します。
2. 検出結果と検出からの出力を確認します。
3. ステークホルダーの評価を確認します。
4. ステークホルダーリストを確認して展開します。
5. 変更の影響 (役割と責任、トレーニングなど) をロール別に特定します。

6. 変更の影響に基づいてロールをカテゴリにグループ化します。
7. 既存の状態と希望する状態を定義して、各ステークホルダーグループを優先順位付けマトリックスにマッピングします。
8. 各ステークホルダーグループが知っておくべきことを定義します。
9. 各ステークホルダーグループに情報を提供するタイミングを決定します。
10. コミットメントモデルに基づいて、各ステークホルダーグループのキーマッセージを定義します。
 - 目標
 - 測定可能な目標
 - キーマッセージをバックアップするための追加情報
11. コミュニケーション方法リストを確認して展開します。
12. 各ステークホルダーグループに推奨されるコミュニケーション方法を決定します。
13. 各ステークホルダーグループのメッセージとメッセージを特定します。
14. コミュニケーションの有効性を測定する最善の方法と、この評価を行う頻度を決定します。
15. コミュニケーションカレンダーをベースラインとして使用して、作業計画を作成します。
16. コミュニケーション計画を実装し、結果を測定します。
17. フィードバックプロセスを管理し、必要に応じてアプローチを改良または再設計します。
18. エンゲージメント戦略と計画を立てます。
19. エンゲージメント戦略を確認して検証し、リーダーシップチームと計画を立てます。
20. エンゲージメント戦略と計画にサインオフします。

これらの重要な要素とベストプラクティスに焦点を当てることで、組織のクラウドトランスフォーメーションジャーニーをサポートする包括的なエンゲージメント戦略と計画を立て、ステークホルダーのコミットメントを確保し、クラウド導入を成功させる可能性を最大化できます。

3.4 トレーニング戦略と計画

概要:

トレーニングは、クラウド移行、モダナイゼーション、またはトランスフォーメーションチームを準備して、クラウドトランスフォームされた将来の状態でのジョブを理解して実行するために不可欠です。ユーザーが新しいプロセスやテクノロジーを学ぶのに役立つ正式な構造、指示、実践を提供します。適切に設計されたトレーニング戦略により、従業員は新しいクラウド環境で自信を持って運用できます。

トレーニング戦略と計画では、以下を定義します。

- 対象者
- トレーニング方法
- コンテンツ
- タイムライン
- ファシリテーター
- ロジスティクス

AWS は、トレーニング要件に対してデータ駆動型のアプローチを取ります。無料の [AWS Learning Needs Analysis \(LNA\)](#) ツールを使用して、組織のクラウドスキルギャップを特定できます。これにより、ターゲットを絞った費用対効果の高いトレーニングプランを作成できます。

新しいクラウドスキルのトレーニングは、多くの場合、オンデマンド、仮想インストラクター主導、対面のインストラクター主導、実践的なラボ、[ゲームデー](#)、[イマージョンデー](#)など、さまざまな形式のブレンドです。効果的なトレーニング戦略には大きな利点があります。

- 新しいクラウドテクノロジーとプロセスの採用を加速
- エラーを減らし、運用効率を向上させる
- 従業員の自信と仕事への満足度を高める
- 組織の俊敏性とイノベーション機能を改善
- クラウドテクノロジーによる投資収益率 (ROI) の向上
- スキルギャップに関連するリスクを軽減します
- 成長の機会を提供することで人材の定着をサポートします

ベストプラクティス

- ビジネス目標に合わせる。トレーニング戦略が全体的なクラウドトランスフォーメーション目標をサポートしていることを確認します。
- 重要なコンピテンシーに優先順位を付けます。クラウド導入を成功させるために最も重要なスキルに焦点を当てます。
- 多様な学習形式を使用します。次のようなさまざまなトレーニング方法をブレンドします。
 - オンデマンドコース
 - インストラクター主導の仮想セッション
 - 対面ワークショップ
 - 実践ラボ
 - ゲームデー
 - 没入日数
- データ駆動型インサイトを活用します。[AWS LNA](#)などのツールを使用してスキルギャップを特定し、トレーニングプランを調整します。
- タイムラインを作成します。クラウドトランスフォーメーションロードマップに沿ったトレーニングシーケンスを作成します。
- ナレッジ取得を評価します。認定や実践的なデモンストレーションなどの評価方法を実装します。
- プランを継続的に更新します。進化するクラウドテクノロジーと組織のニーズに遅れないように、トレーニング計画を定期的に見直して更新します。

トレーニング戦略と計画の主なコンポーネントは次のとおりです。

- トレーニング目標: 参加、スキルの向上、認定、特定の能力について期待される成果を定義します。
- トレーニングの指針原則: 資金、要件、調達に対処する意思決定の境界を確立します。
- トレーニング方法: 対面、仮想、コンピュータベース、セルフペース、または組み合わせなどの配信方法を決定します。
- 対象者: トレーニングの主なロール、部門、ユーザーを特定します。
- トレーニングアクティビティ: クラウドプログラムに沿ったタイムラインを作成します。プロジェクト追跡ツールに特定のユーザーストーリーを含めます。
- 組織の役割と責任: トレーニングを実装、モニタリング、測定し、結果を伝える責任を定義します。

よくある質問

Q. トレーニング戦略が重要なのはなぜですか？

A. トレーニング戦略は、トレーニング投資の価値を示しながら、知識、スキル、能力を組織の目標と整合させます。

[AWS LNA](#) は、継続的な成長のための学習レコメンデーションを作成します。これにより、ワークフォース、トレーニングアクティビティ、ナレッジの増加で収集したデータを実用的な方法で使用できます。

明確に定義されたトレーニング戦略がない場合は、クラウドで効果的に運用するための要件や、オンプレミスでの運用との違いに慣れていない従業員は、その知識を得るために独自のリソースに頼る必要があります。これにより、クラウド運用とは無関係なトレーニングや知識の取得に非生産的な時間が費やされる可能性があります。明確なトレーニング戦略と計画は、クラウド環境で正常に運用するために必要なスキルをカバーする、影響を受けるすべての従業員に個別のロードマップを提供します。

Q. このアクティビティはいつスケジュールしますか？

A. クラウドトランスフォーメーションプロジェクトの開始時、ギャップと変更の影響を判断した後、トレーニング戦略と計画作業を開始し、影響を受けるチームや従業員を特定します。

Q. LNA AWS とは

A. AWS LNA は、組織のクラウドスキルのギャップを特定する無料の自己評価ツールです。従業員は適応型アンケートに回答し、AWS エキスパートは結果を使用して、ターゲットを絞った費用対効果の高いトレーニングおよび認定計画を作成します。

Q. このアクティビティには誰が関与すべきですか？

A. 参加者には、エグゼクティブスポンサー、クラウドリーダー、IT リーダー、人事リーダー、チームアーキテクト、データリーダー、セキュリティリーダー、運用リーダー、トレーニングリーダー、財務リーダー、インフラストラクチャリーダー、事業部門リーダーを含める必要があります。

Q. このアクティビティへの主要な入力は何ですか？

A. 入力には、[ステークホルダー評価](#)、トレーニング評価、検出ドキュメント、[変更影響評価](#)が含まれます。

Q. このアクティビティの主な出力は何ですか？

A. 出力には、トレーニングガイド原則、対象者分析、トレーニング計画、トレーニングの役割と責任、トレーニング目標、トレーニング予算が含まれます。

追加のステップ

トレーニング戦略と計画を作成するには:

1. 内部トレーニングチームにインタビューして、特定のニーズと適切な提供方法を理解します。
2. 将来の状態ロールに対する潜在的な影響については、人事にお問い合わせください。
3. 機能プロセスエリアリーダーにインタビューして、それぞれのエリアの詳細を理解します。
4. 外部向けグループに相談して、顧客やサプライヤーに対するトレーニングの潜在的な影響を理解します。
5. すべてのドキュメントと情報を評価し、必要に応じて主要な利害関係者にフォローアップします。
6. 次の構造に従って、トレーニング戦略ドキュメントを構築します。
 - トレーニングの目的
 - トレーニングの指針
 - トレーニング方法
 - 対象者
 - トレーニングアクティビティ (作業計画とアプローチ)
 - 組織のロールと説明責任

これらの要素とベストプラクティスに焦点を当てることで、クラウドトランスフォーメーションをサポートし、スキルギャップに対処し、従業員が新しいクラウド環境に専念できるようにする、組織の包括的なトレーニング戦略を開発できます。

3.5 リスク軽減戦略と計画

概要

人関連の問題は、クラウドジャーニーの開始やスケーリングを妨げるリスクやブロック要因になる可能性があります。リスク軽減戦略と計画は、これらの問題を可視化し、障害を取り除き、変化を加速するための構造化されたアプローチを提供します。一般的な人関連の問題は次のとおりです。

- クラウド目標に関するリーダー間の不一致
- タイムラインとリソース割り当てに関連する優先順位の違い
- サイロ化された関数または管理レイヤー間の通信の内訳
- ワークフォース全体のクラウドスキル不足

これらのリスクを軽減することで、企業の労力、時間、費用を節約し、組織の摩擦を軽減できます。これらのリスクは、従業員が適切に管理されていない場合、損害を受ける可能性があります。

効果的なリスク軽減戦略には、大きな利点があります。

- 潜在的な障害に積極的に対処することで、クラウドの導入を加速する
- プロジェクトのタイムラインと予算の遵守を改善
- ステークホルダーの連携とコミュニケーションを強化する
- トランスフォーメーションの課題に関連する従業員のストレスとターンオーバーを削減
- クラウドイニシアチブの全体的な成功率を高める
- 継続的な改善のための構造化されたアプローチを提供する

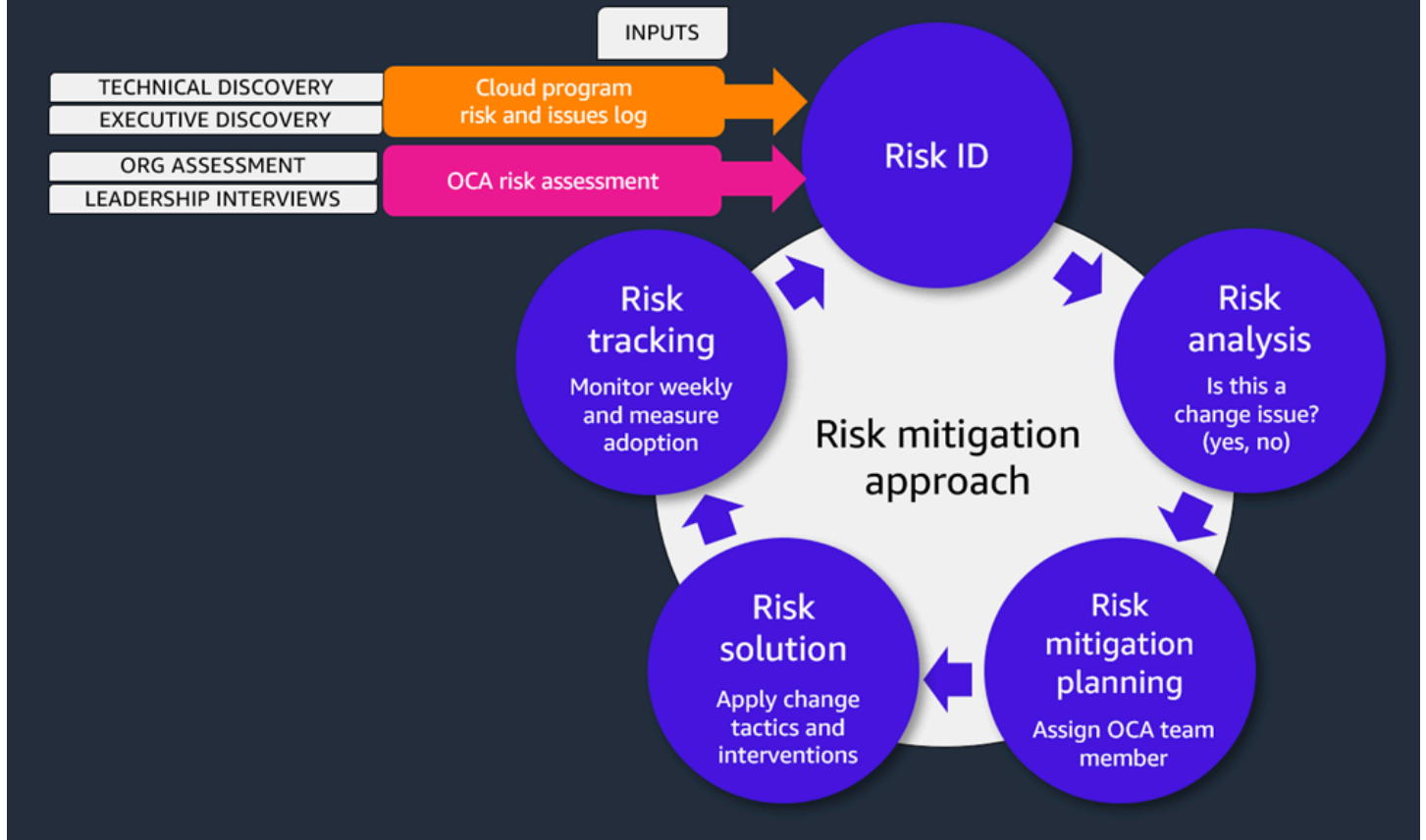
ベストプラクティス

- クラウド戦略を確認し、期待される成果とタイムラインを計画します。
- 全体的な問題とリスク軽減プロセスについて、プロジェクトマネージャーと調整します。
- 継続的なリスク特定プロセスを開発します。
- ビジョンと明確さ、文化、コミットメント、コミュニケーション、保持とエンゲージメント、スキルと能力など、リスク分類のディメンションを確立します。

- リスクの重大度と発生確率を評価します。
- リスク追跡および評価ツールを開発します (このセクションの後半にある例の表を参照)。
- 人材トランスフォーメーションの成果物をタイムリーに完了するリスクをもたらす可能性のある人材関連の問題を文書化します。
- プログラムを調べて、技術リスク、予算リスク、タイミングリスクが人々にどのように影響し、人々関連のリスクを生み出すかを確認します。
- 機密性の高いリスクや機密性の高いリスクを適切に処理し、知る必要のある少数の人々にのみ伝達します。
- クラウドプログラムの過程で人に関連するリスクの軽減とクローズを追跡し、望ましいクラウド成果の達成への影響を評価します。例えば、影響ステートメントは「15件の重大度の高いリスクが特定され、軽減されました。これらのリスクが軽減されなければ、クラウドジャーニーは約6か月遅れる可能性があります」です。

次の図は、リスク軽減戦略の入力と出力を示しています。

OCA risk mitigation strategy



次の表に、リスク追跡ツールの例を示します。

リスクカテゴリ	重要度	確率	リスクの説明	緩和アクション	[所有者]	ステータス	期日
リソース	Medium	高	セキュリティティ SME は、テストおよびカットオーバーフェー	特定のテストとカットオーバー計画について、バックアップ	マルタリベラ	進行中	2025年3月31日

リスクカテゴリー	重要度	確率	リスクの説明	緩和アクション	[所有者]	ステータス	期日
			ズと重複する休暇を取りま	セキュリティ SME をオンボーディングおよびトレーニングしま			

よくある質問

Q. リスク軽減戦略が重要なのはなぜですか？

A. リスク軽減戦略と計画は、クラウドトランスフォーメーションを失速、脱線、または遅延させる可能性のある人関連の問題を可視化するための構造化された方法を提供します。このプロセスは、成果物が予定どおりに予算内に収まり、高品質で生成されるようにすると同時に、クラウドトランスフォーメーションチームでリスクを特定、評価、対処するための統合アプローチを提供します。

Q. いつ使用すべきですか？

A. プログラムの開始時にリスク軽減戦略と計画を使用して、形式を設計し、リスクディメンションを確立します。定期的に戦略と計画を確認し、必要に応じて更新します。

Q. どのような種類の問題が人関連として分類され、このアクティビティの対象範囲に含まれますか？

A. 人材関連の問題は、リーダーシップの不整合、優先順位の違い、コミュニケーションの内訳、クラウドスキル不足など、クラウドジャーニーを妨げる可能性のある非技術的な問題です。

Q. このアクティビティには誰が関与すべきですか？

A. 参加者には、エグゼクティブ スポンサー、クラウドリーダー、" リーダー、人事リーダー、社内コミュニケーションチーム、ワークストリームリーダー、プロジェクト管理オフィス (PMO)、エンゲージメントマネージャーを含める必要があります。

Q. この戦略と計画へのインプットは何ですか？

A. インプットには、文化評価、[組織準備評価](#)、リーダーシップ評価レビューワークショップ、ユーザー準備評価、移行準備評価 (MRA) と移行準備計画 (MRP)、プログラムリスクログ、ステータスレポートが含まれます。

Q. このアクティビティの出力は何ですか？

A. このアクティビティは、プログラム全体のリスクプロセスに統合されるリスク特定および管理プロセスと追跡ツールを生成します。

Q. このアクティビティに時間を費やす必要があるのはなぜですか？

A. リスク軽減戦略と計画は、ステータス、問題、エスカレーションを管理し、クラウドジャーニーをブロックまたは遅くする前に競合を解決するためのシームレスで統合されたプロセスを確保します。

追加のステップ

リスク軽減戦略と計画を立てるには、次の手順に従います。

1. リーダーシップ調整のインタビュー、組織の準備状況評価、ワークストリームリード、ステータスレポートなど、さまざまなソースから潜在的な人的リスクを収集します。
2. リスクを評価し、優先順位を付けます。
3. 緩和と処理のためにリスクを所有者に割り当てます。
4. アクションの優先順位を決定し、特定された問題に対処しないリスクを評価します。
5. リスクエスカレーションプロセスを開発します。
6. 人材関連のリスク管理プロセスが顧客およびプログラムプロセスと統合されていることを確認します。
7. リスク軽減戦略と計画の草案を作成します。
8. クラウドリーダーシップチームと戦略を確認して検証します。
9. リスク軽減戦略と計画について、顧客とリーダーシップのサインオフを取得します。
10. リスク管理レビュー会議を定期的 to 実施します。
11. リスクステータスを継続的に追跡します。

これらの要素とベストプラクティスに焦点を当てることで、クラウドトランスフォーメーションをサポートし、潜在的な障害に対処し、クラウド環境へのスムーズな移行を保証する包括的なリスク軽減戦略を組織のために策定できます。

3.6 スポンサーロードマップ

概要

スポンサーのサポートとアクションは、導入を促進するための重要な手段です。変化の導入を達成するためには、アクティブで目に見えるスポンサーを持つことが最も重要な要素です。スポンサーの積極的な関与とプレゼンスは、個人や組織に期待される望ましい行動を確立するのに役立ちます。構造化されたプロセスは、メッセージングの一貫性を確保し、意図した組織の目標を達成するのに役立ちます。

効果的なスポンサーロードマップには、大きな利点があります。

- 一貫したリーダーシップサポートを通じてクラウド導入を加速
- リーダーシップとトランスフォーメーション目標の連携を強化
- トップダウンコミットメントを示すことで、変更への抵抗を軽減します
- 組織全体のコミュニケーションの有効性を改善
- 望ましいビジネス成果を達成する可能性を高める
- クラウドトランスフォーメーションを成功させるために必要な文化的変化をサポートします

ベストプラクティス

スポンサーロードマップを策定するには、クラウドプログラムの開始時にスポンサーのコミットメントを確保し、以下の最初のステップを実行します。

- エグゼクティブとクラウドリーダーにスポンサーシッププロセスの一般的な認識と理解を提供します。
- スポンサーをオンボーディングし、ロールの説明、説明責任の期待、主要なメッセージ、実装タイムラインを提供します。
- [ビジネスケースからの主要なメッセージを使用して](#)、クラウド移行のビジョン、企業やステークホルダーグループへのメリット、全体的なビジネス価値を強化します。
- コミットメントを育むためのあらゆるステップで "チームが存在するというメッセージを強調します。

ビジネススポンサーと IT スポンサーの両方を検討してください。クラウドの導入がビジネス戦略と成果の重要な要素である場合は、エグゼクティブスポンサーやビジネススポンサーなど、組織のビジネス側のスポンサーが必要です。

スポンサーロードマップを設計するには：

- 戦略的ビジョン、ビジネスケース、および以前のワークショップや組織分析からの成果を確認して、メリットとビジネス価値に関するインサイトを取得します。多くの場合、入力には以下が含まれます。
 - 戦略的ビジョン
 - ビジネスケース
 - 検出およびその他のワークショップの検出結果と出力
 - エグゼクティブスポンサーとリーダーシップのインタビュー
 - からのフィードバック：
 - リーダーシップのステークホルダーを変更する (可能な場合)
 - コミュニケーションのステークホルダー (利用可能な場合)
 - トレーニングステークホルダー (利用可能な場合)
 - 人事関係者
- プログラムのメッセージングとエンゲージメントに不可欠であり、プログラムを実装し、選択したステークホルダーとやり取りするリーダーと割り当てられたステークホルダーを特定します。少なくとも、これにはエグゼクティブスポンサー、プロジェクトリーダー、変更リーダー、変更エージェントまたは推進者、内部変更チームの連絡担当者、内部コミュニケーション、人事が含まれます。
- エンゲージメント目標を定義する：
 - プログラムを実装する際の主要な利害関係者の役割を理解します。
 - 選択したステークホルダーを定期的に関与させるための重要な目標を定義します。
 - これらの目標の達成を担当するリーダーと、エンゲージメント目標を話し合い、確定します。
 - ステークホルダーエンゲージメントの形式と頻度について説明します。
 - エンゲージメントの質を評価し、ギャップに対処します。進行状況のモニタリング、レビュー、サポートの頻度を設定します。
 - リーダーと定期的ミーティングを行い、ステークホルダーの現在の意見を目標に照らして自己評価します。

- ステークホルダーエンゲージメントの形式と頻度について説明します。現在のアプローチで十分ですか？新しいソリューションが必要ですか？
- 現在のアプローチの調整を特定し、ステークホルダーを関与させるための新しいソリューションを設計します。
- インプットとリーダーディスカッションを合成して、「スポンサーロードマップ」を策定します。

スポンサーロードマップを実装するには：

- スポンサーロードマップに沿ったステークホルダーとリーダーシップのアクションプランの具体的な目標を策定します。
- ロードマップで定義されているステークホルダーとやり取りします。
- 計画されたアクションの進行状況を追跡して、コミットメントリスクを測定します。
- 段階とプログラムのリスクが時間の経過とともに変化するにつれて、リーダーシップのアクションプランを適切な間隔で (少なくとも四半期ごとに) 更新します。

効果的なスポンサーになるには：

- ビジョンに集中し、プロジェクトのライフサイクルを通じてアクティブで他のユーザーに見えるようにします。
- 明確かつ頻繁にコミュニケーションをとり、すべてのステークホルダーグループにターゲットを絞ったメッセージを提供します。
- スポンサーシップを委任しないでください。従業員はリーダーから所有権と説明責任を確認する必要があります。
- チームを強化するためのプロジェクトへのサポートを明確に示すことで、先頭からリードします。
- ビジネスに他の従業員を関与させ、改革の所有権を拡大するためのスポンサーシップ連合を策定します。
- ステークホルダーのフィードバックにリッスンして対応することで、抵抗を管理します。
- 成功に報酬を与えて称賛することで、変更を強化します。
- 変革の人的側面を教育し、プログラムによるアプローチをとるには、「」の 6-Pointフレームワークを適用します。スポンサーシップの責任に対処するために、必要な時間とリソースを費やします。

以下は、リーダーシップアクションプランのワークシート形式のスポンサーロードマップの2つの例です。

Insert leader name Sponsor/leadership action plan						
Start month - end month Team		Month Year	Month Year	Month Year	Month Year	Month Year
Key initiative events and goals	• Insert key project events • •	• Insert key project events • •	• Insert key project events • •	• Insert key project events • •	• Insert key project events • •	• Insert key project events • •
PLAN						
Leader names and action items	□ Target date Insert task □ □	<i>Date complete</i> □ □	□ Target date Insert task □ □	<i>Date complete</i> □ □	□ Target date Insert task □ □	<i>Date complete</i> □ □
DO						
Feedback: What worked well, what did not?	□ Feedback on activity/task □ □	<i>Feedback owner</i> □ □	□ Feedback on activity/task □ □	<i>Feedback owner</i> □ □	□ Feedback on activity/task □ □	<i>Feedback owner</i> □ □
CHECK						
Action items for team to maintain, update, or correct	□ Insert leader or elevate team follow-up activities □ □	<i>Owner</i> □ □	□ Insert leader or elevate team follow-up activities □ □	<i>Owner</i> □ □	□ Insert leader or elevate team follow-up activities □ □	<i>Owner</i> □ □
ACT						

Example action plan for achieving transformation goals

Name:		Position:		Date:	
Goal #1 What do I want to accomplish? <i>This should be aligned with one or more of your leader's goals.</i>					
Goal name	Metric target	Start date	End (due) date		
Reduce total cost of ownership (TCO) by 10 % by 202x a. Remain on target for transformation dates b. Maintain less than 2% delay	Annual TCO is reduced by 10%	202x	202x		
MY ACTIONS					
How can I accomplish goal #1?					
Goal name	Start	Finish	Status		
1. Participate in planning.			25% = in progress		
2. Allocate resources to transformation activities.			100%		
3. Implement cost measurement plan.			50% = in progress		
4. Communicate transformation goals.			100%		
5. Ensure FinOps representation to evaluate TCO targets.			25% = in progress		

よくある質問

Q. このアクティビティはいつ行いますか？

A. クラウド移行とモダナイゼーションプロセスの最初からスポンサーのコミットメントを確保します。エグゼクティブ、クラウド移行、モダナイゼーションのリーダーに、スポンサーシッププロセスの一般的な認識と理解を提供します。スポンサーを適切にオンボーディングし、ロールの説明、説明責任、キーメッセージング、スポンサーロードマップ、タイムラインを提供します。改革促進チームがプロセスのあらゆる段階に関与し、コミットメントを確保するというメッセージを強調します。重要なメッセージにより、クラウド移行のビジョン、メリット、全体的なビジネス価値が強化されます。

Q. このアクティビティには誰が関与すべきですか？

A. 参加者には、エグゼクティブスポンサー、クラウドリーダー、"リーダー、人事リーダー、内部コミュニケーションチーム、ワークストリームリーダー、プロジェクト管理オフィス (PMO)、エンゲージメントマネージャーを含める必要があります。

Q. このアクティビティへの入力は何ですか？

A.入力には、ビジネスケース、検出ドキュメントの結果、エグゼクティブスポンサーと人事のインタビュー、ステークホルダー分析、クラウド戦略、ビジネス価値実現計画が含まれます。

Q. このアクティビティの出力は何ですか？

A.出力には、スポンサーシップのニーズの特定、スポンサープランの設計、スポンサーシップの実装プランが含まれます。

追加のステップ

1. スポンサーロードマップと実装スケジュールを作成したら、ワークストリームのメンバーやステークホルダーとレビューし、フィードバックに基づいて絞り込みます。
2. ロールアウトするときは、プログラムの進行状況に合わせて変更または反復する準備をしてください。
3. クラウドプログラム外のピアにロードマップを確認し、次のような質問をすることを検討してください。
 - スポンサーロードマップは理解しやすいですか？
 - 他のユーザーに説明できますか？
 - すべてのリーダーステークホルダーグループに対応していますか？
 - 達成可能ですか？
 - どこで共有する必要がありますか？ どの視聴者がそれについて聞く必要がありますか？
 - クラウドを変更して採用するには、切迫感を生み出すだけで十分ですか？
4. 進捗状況を追跡し、ステークホルダーからフィードバックを得てスポンサーの有効性を評価し、必要に応じてリーダーシップのアクションプランを調整します。

これらの要素とベストプラクティスに焦点を当てることで、クラウドトランスフォーメーションをサポートし、一貫したリーダーシップエンゲージメントを確保し、組織全体の採用を促進する包括的なスポンサーロードマップを開発できます。

3.7 持続可能性計画

概要

持続可能性計画は、組織改革促進アクティビティをプロジェクトのステータスから通常どおりビジネス (BAU) に移行するための積極的なアプローチを提供します。この計画を早期に開発することで、Envision the Future フェーズで、クラウドジャーニーの所有権を確保し、導入直後にプロジェクトを中止するリスクを最小限に抑えるためのロードマップを作成できます。

計画アクティビティをクラウドリーダーシップチームと調整して、クラウドトランスフォーメーションジャーニーの初期段階以降の期待を理解し、確立します。次の点を考慮してください。

- 組織の変更
- 役職、役割、責任のギャップ
- コミュニケーションのニーズ
- 追加のトレーニング要件
- ナレッジライブラリまたはリポジトリ
- ビジネスメトリクスは " メジャーと関連しています

持続可能性計画は頻繁に進化し、クラウドジャーニー全体でステータス会議、遡及、リスク、アクション、問題、依存関係 (RAID) ログからニーズをキャプチャします。

効果的な持続可能性計画には、大きな利点があります。

- クラウドテクノロジーとプラクティスの長期的な導入を確保します
- 古い作業方法に戻すリスクを軽減
- クラウド中心の文化を組織の働き方に埋め込む
- クラウドトランスフォーメーションの取り組みにおける投資収益率 (ROI) を最大化
- 継続的な改善とイノベーションをサポート
- 組織の俊敏性と適応性を強化

ベストプラクティス

クラウドジャーニーの初期段階では、クラウドへの移行は優先度の高いプロジェクトまたはイニシアチブとして扱われる可能性があります。そのため、プロジェクトは、成功に寄与するプロジェクトやリーダーシップの行動や活動に影響を与えることがよくあります。例：

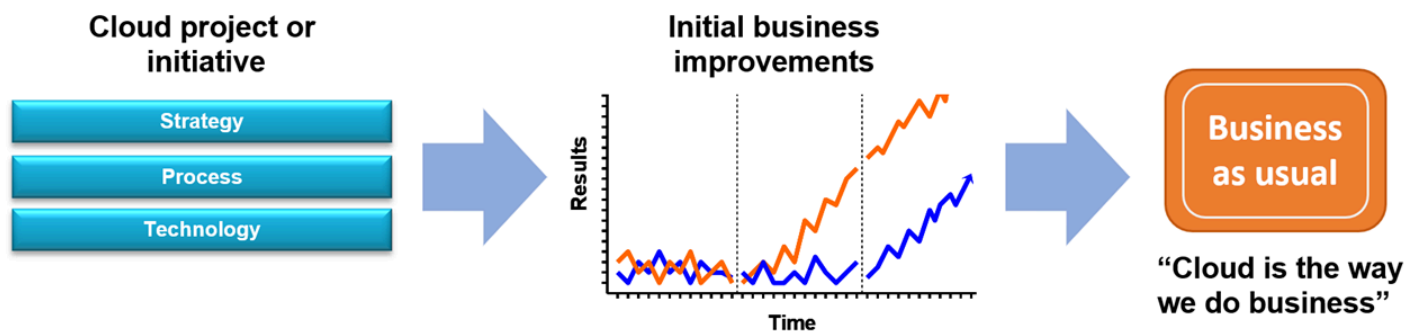
プロジェクトの動作とアクティビティ：

- メトリクス
- 改革促進とコミュニケーション
- アサティブ変更エージェントとコンサルタント

リーダーシップの行動とアクティビティ：

- 組織がサポートできる重要なプロジェクトを作成し、勢いを維持する
- これらのプロジェクトのアクティビティまたは非アクティビティの長期的な結果を定義する
- プロジェクトと価値の実現について質問する
- 運営委員会会議

ただし、ある時点で、クラウドへのジャーニーはプロジェクトまたはイニシアチブとして扱われなくなり、通常どおりビジネスになるはずです。



時間の経過とともに改善の成果を維持するには、社内の持続可能性と所有権を生み出すための、プロアクティブで体系的なアプローチが必要です。

よくある質問

Q. 持続可能性計画が重要なのはなぜですか？

A. 持続可能性計画では、クラウド移行の初期段階を超えて、将来の状態モデルを採用し、時間のテストに立ち向かうために必要なステップを確保します。人とテクノロジーの進化に合わせて、クラウドトランスフォーメーションを将来にわたって証明するメカニズムを提供します。

Q. このプランへの入力は何ですか？

A. インプットには、組織改革促進の所有権のビジョンと目標、および " の観点から対処する必要があるギャップ (例: 遡及、文化評価、組織準備状況評価、リーダーシップ準備状況レビューワークショップ、ユーザー準備状況評価、プログラムリスクログ、ステータスレポート) が含まれます。

Q. このアクティビティの出力は何ですか？

A. 主な成果は、プロジェクト閉鎖と持続可能性計画であり、これは " の継続的な所有権を確立します。

Q. CCoE も持続可能であることを確認するにはどうすればよいですか？

A. AWS Cloud Center of Excellence (CCoE) の方法論の一環として、四半期ごとに CCoE の構成 (人、プロセス、ツール、ポリシーなど) を評価することをお勧めします。クラウドトランスフォーメーションプログラムと同様に、CCoE はリーダーシップ機能として進化します。

Q. クラウドトランスフォーメーションのライフサイクルにおける持続可能性の適用場所と開始時期

A. クラウドトランスフォーメーションライフサイクルの未来をビジョンする段階で持続可能性計画の設計を開始し、プログラムをスケールします。

Q. このアクティビティに時間を費やす必要があるのはなぜですか？

A. クラウドトランスフォーメーションジャーニーは、移行、最適化、イノベーションを進めるにつれて、組織に大きな変化をもたらし続けます。クラウドプログラムから期待されるビジネス成果を達成および維持する能力は、組織改革促進を所有および維持する能力と正比例します。

追加のステップ

組織促進戦略の将来のフェーズの所有権を計画するための推奨ステップは次のとおりです。

1. クラウド戦略と目標を確認します。望ましいビジネス成果を達成するための軌道を進んでいますか？ 望ましいビジネス成果を達成または加速するために克服する必要がある人関連の障壁は何ですか？
2. 未来の状態に対する組織改革促進の所有権のビジョンと目標を策定します。前提条件を策定して検証します。

3. Cloud Center of Excellence (CCoE) がある場合は、リーダーシップ、改革促進、トレーニング、コミュニケーションに関連する Cloud Business Office (CBO) 機能の成熟度を評価します。
4. 変更計画の資料とフィードバックを確認します。例：
 - どの主要なリスクが特定されていますか？
 - どのような予期しないフィードバックが浮上しましたか？
 - 組織の自然な次のステップはどこにありますか？
5. 改革促進ワークストリームで頻繁な遡及を実施します。他のすべてのワークストリームから入力を含めます。何がうまく機能していますか？改善できる点
6. 組織改革促進戦略の各主要要素を所有および維持する組織の能力を評価します。
 - ビジネス価値と成果の実現の追跡
 - リーダーシップがクラウド導入を推進しているかどうか
 - エグゼクティブスポンサーが変更とブロック要因の削除のケースを伝えているかどうか
 - クラウドの最適なメリットを実現するための文化の変化
 - 影響を受けるステークホルダーへのコミュニケーション
 - 現在および将来のクラウドニーズに関するトレーニング計画
 - 将来のクラウドニーズに合わせた人材獲得戦略
 - クラウド戦略に沿った人材管理とワークフォーストランスフォーメーション
 - デジタル流暢でクラウドソリューションに精通した後、またはクラウド認定を取得した後に、貴重なクラウド人材を保持する戦略
7. 各コンポーネントについて、リソース、コンピテンシー、プロセス、構造、動作とタスク、結果とインセンティブシステムを考慮します。

フォーカスエリア	考慮事項
リソース	<ul style="list-style-type: none"> • 現在の (クラウドまたはオンプレミス) スコープをリードして実装するために必要なリソースはいくつですか？ • 将来の状態をリードして実装するには、いくつのリソースが必要ですか？ • ギャップを埋め、所有権を増やすにはどうすればよいですか？

フォーカスエリア	考慮事項
コンピテンシー	<ul style="list-style-type: none"> • 希望するレベルのコンピテンシーと比較して、現在のコンピテンシーは何ですか？ • 最優先事項 (計画、トレーニング、コミュニケーションなど) は何ですか？ • 公式または非公式のトレーニング、シャドウイング、経験的アクティビティを通じて、ギャップを埋め、コンピテンシーを高めるにはどうすればよいですか？ • 習熟度を測定または確保する方法
プロセス	<ul style="list-style-type: none"> • 組織改革促進コンポーネントを実装するための現在のプロセスは何ですか？ 考えられる障害ポイントはどこにありますか？ • 摩擦が少なく、頻繁なフィードバックループによって適応性を高めることができる将来の状態プロセスはありますか？ どのように自動化すればいいですか？ • プロセスの責任者は誰ですか？ 責任、説明責任、相談、情報 (RACI) マトリックスは存在しますか？
構造	<ul style="list-style-type: none"> • 将来の状態をサポートする適切な構造 (一元化、分散、埋め込みなど) がありますか？ • 組織改革促進戦略をサポートする適切な場所に人材がいますか？ • 適切な説明責任とフィードバックがあるか？

フォーカスエリア	考慮事項
動作とタスク	<ul style="list-style-type: none">• 組織改革促進コンポーネントを実装するために必要な動作やタスクは何ですか？• 組織改革促進の指針は何ですか？• 動作やタスクは、他のユーザーが実装できるように明確に定義されていますか？
結果とインセンティブシステム	<ul style="list-style-type: none">• 正式なインセンティブシステムと非公式のインセンティブシステムは、望ましい将来の状態動作をサポートするように調整されていますか？• 将来の状態動作を奨励するために、どのようなプラスの結果やインセンティブを追加で導入できますか？• 望ましい動作が不注意で悪影響を受けているか？• 望ましくない行動が不注意で報われていますか？

これらの要素とベストプラクティスに焦点を当てることで、組織のクラウドトランスフォーメーションジャーニーにおける長期的な成功を保証する包括的な持続可能性計画を策定できます。

リソース

リファレンス

- [戦略的変革と変革の方法論を採用することで、クラウド投資収益率を加速する](#)
- [AWS Change Acceleration 6-Pointフレームワークと組織変更管理ツールキット](#)
- [AWS Organizational Change Acceleration \("\) 6-Pointフレームワーク – 1. チームの準備](#)
- [AWS Organizational Change Acceleration \("\) 6-Pointフレームワーク – 2. リーダーの連携](#)
- [AWS Organizational Change Acceleration \("\) 6-Pointフレームワーク – 4. 組織を関与させる](#)
- [AWS Organizational Change Acceleration \("\) 6-Pointフレームワーク – 5. 能力を発揮させる](#)
- [AWS Organizational Change Acceleration \("\) 6-Pointフレームワーク – 6. 文化の変化を定着させる](#)
- [AWS クラウド導入フレームワーク \(CAF\)](#)
- [AWS クラウド導入フレームワーク \(CAF\) の人々の視点](#)
- [2024 年の IT スキルと給与 \(Skillsoft グローバルナレッジレポート \)](#)
- [AWS 認定とトレーニング](#)
- [AWS GameDay](#)
- [AWS ソリューションに重点を置いたイマージョンデー](#)
- [AWS 学習ニーズ分析 \(LNA\)](#)

パートナー

- アクセント
 - [問い合わせパートナー](#)
 - [Accenture AWS Business Group へのお問い合わせ](#)
 - [将来の人材プラットフォーム](#)
 - [Accenture と AWS を使用すると、さらに高速になります。](#)
- デロイト
 - [パートナーへのお問い合わせ](#)
 - [AWS と Deloitte](#)
 - [イノベーションと影響の出会い](#)

- PwC
 - [問い合わせパートナー](#)
 - [PwC と AWS](#)
- スラロム
 - [問い合わせパートナー](#)
 - [AWS および Slalom 起動センター](#)
- Roberts グループコンサルティング
 - [問い合わせパートナー](#)

寄稿者

- Melanie Gladwell、AWS シニアプラクティスマネージャー
- Scott、AWS People Transformation Lead
- Tierra Jennings-Hill、AWS 人事変革リーダー
- Nicole Lenz、AWS セールストランスフォーメーションリード
- Jermel Moody、AWS Change Acceleration リード
- Travis McNeal、AWS Change Acceleration リード

ドキュメント履歴

以下の表は、本ガイドの重要な変更点について説明したものです。今後の更新に関する通知を受け取る場合は、[RSS フィード](#) をサブスクライブできます。

変更	説明	日付
初版発行	—	2025 年 1 月 31 日

AWS 規範ガイドランスの用語集

以下は、AWS 規範ガイドランスによって提供される戦略、ガイド、パターンで一般的に使用される用語です。エントリを提案するには、用語集の最後のフィードバックの提供リンクを使用します。

数字

7 Rs

アプリケーションをクラウドに移行するための7つの一般的な移行戦略。これらの戦略は、ガートナーが2011年に特定した5Rsに基づいて構築され、以下で構成されています。

- リファクタリング/アーキテクチャの再設計 — クラウドネイティブ特徴を最大限に活用して、俊敏性、パフォーマンス、スケーラビリティを向上させ、アプリケーションを移動させ、アーキテクチャを変更します。これには、通常、オペレーティングシステムとデータベースの移植が含まれます。例: オンプレミスの Oracle データベースを Amazon Aurora PostgreSQL 互換エディションに移行する。
- リプラットフォーム (リフトアンドリシェイプ) — アプリケーションをクラウドに移行し、クラウド機能を活用するための最適化レベルを導入します。例: お客様のオンプレミスの Oracle データベースを AWS クラウドの Oracle 用の Amazon Relational Database Service (Amazon RDS) に移行する。
- 再購入 (ドロップアンドショップ) — 通常、従来のライセンスから SaaS モデルに移行して、別の製品に切り替えます。例: 顧客関係管理 (CRM) システムを Salesforce.com に移行する。
- リホスト (リフトアンドシフト) — クラウド機能を活用するための変更を加えずに、アプリケーションをクラウドに移行します。例: お客様のオンプレミスの Oracle データベースを AWS クラウドの EC2 インスタンス上の Oracle に移行する。
- 再配置 (ハイパーバイザーレベルのリフトアンドシフト) — 新しいハードウェアを購入したり、アプリケーションを書き換えたり、既存の運用を変更したりすることなく、インフラストラクチャをクラウドに移行できます。オンプレミスプラットフォームから同じプラットフォームのクラウドサービスにサーバーを移行します。例: Microsoft Hyper-Vアプリケーションをに移行します AWS。
- 保持 (再アクセス) — アプリケーションをお客様のソース環境で保持します。これには、主要なリファクタリングを必要とするアプリケーションや、お客様がその作業を後日まで延期したいアプリケーション、およびそれらを行き移るためのビジネス上の正当性がないため、お客様が保持するレガシーアプリケーションなどがあります。
- 廃止 — お客様のソース環境で不要になったアプリケーションを停止または削除します。

A

ABAC

「[属性ベースのアクセス制御](#)」をご覧ください。

抽象化されたサービス

「[マネージドユーザー](#)」をご覧ください。

ACID

「[原子性、一貫性、分離性、耐久性 \(ACID\)](#)」をご覧ください。

アクティブ/アクティブ移行

(双方向レプリケーションツールまたは二重書き込み操作を使用して) ソースデータベースとターゲットデータベースを同期させ、移行中に両方のデータベースが接続アプリケーションからのトランザクションを処理するデータベース移行方法。この方法では、1 回限りのカットオーバーの必要がなく、管理された小規模なバッチで移行できます。[アクティブ/パッシブ移行](#)よりも柔軟な方法ですが、さらに多くの作業が必要となります。

アクティブ/パッシブ移行

ソースデータベースとターゲットデータベースを同期させながら、データがターゲットデータベースにレプリケートされている間、接続しているアプリケーションからのトランザクションをソースデータベースのみで処理するデータベース移行方法。移行中、ターゲットデータベースはトランザクションを受け付けません。

集計関数

複数行に処理を行い、グループ全体を対象に単一の戻り値を計算する SQL 関数。集計関数の例としては、SUM や MAX などがあります。

AI

「[人工知能](#)」をご覧ください。

AIOps

「[AI オペレーション](#)」をご覧ください。

匿名化

データセット内の個人情報を完全に削除するプロセス。匿名化は個人のプライバシー保護に役立ちます。匿名化されたデータは、もはや個人データとは見なされません。

アンチパターン

繰り返し起こる問題に対して頻繁に用いられる解決策で、その解決策が逆効果であったり、効果がなかったり、代替案よりも効果が低かったりするもの。

アプリケーション制御

マルウェアからシステムを保護するために、承認されたアプリケーションのみを使用できるようにするセキュリティアプローチ。

アプリケーションポートフォリオ

アプリケーションの構築と維持にかかるコスト、およびそのビジネス価値を含む、組織が使用する各アプリケーションに関する詳細情報の集まり。この情報は、[ポートフォリオの検出と分析プロセス](#)の重要な要素であり、移行、モダナイズ、最適化するアプリケーションを特定し、優先順位を付けるのに役立ちます。

人工知能 (AI)

コンピューティングテクノロジーを使用し、学習、問題の解決、パターンの認識など、通常は人間に関連づけられる認知機能の実行に特化したコンピュータサイエンスの分野。詳細については、「[人工知能 \(AI\) とは何ですか?](#)」をご覧ください。

AI オペレーション (AIOps)

機械学習技術を使用して運用上の問題を解決し、運用上のインシデントと人の介入を減らし、サービス品質を向上させるプロセス。AWS 移行戦略での AIOps の使用方法については、[オペレーション統合ガイド](#)を参照してください。

非対称暗号化

暗号化用のパブリックキーと復号用のプライベートキーから成る 1 組のキーを使用した、暗号化のアルゴリズム。パブリックキーは復号には使用されないため共有しても問題ありませんが、プライベートキーの利用は厳しく制限する必要があります。

原子性、一貫性、分離性、耐久性 (ACID)

エラー、停電、その他の問題が発生した場合でも、データベースのデータ有効性と運用上の信頼性を保証する一連のソフトウェアプロパティ。

属性ベースのアクセス制御 (ABAC)

部署、役職、チーム名など、ユーザーの属性に基づいてアクセス許可をきめ細かく設定する方法。詳細については、AWS Identity and Access Management (IAM) ドキュメントの「[ABAC AWS](#)」を参照してください。

信頼できるデータソース

最も信頼性のある情報源とされるデータのプライマリーバージョンを保存する場所。匿名化、編集、仮名化など、データを処理または変更する目的で、信頼できるデータソースから他の場所にデータをコピーすることができます。

アベイラビリティゾーン (AZ)

他のアベイラビリティゾーンの障害から AWS リージョン 隔離され、同じリージョン内の他のアベイラビリティゾーンへの低コストで低レイテンシーのネットワーク接続を提供する 内の別の場所。

AWS クラウド導入フレームワーク (AWS CAF)

組織がクラウドへの移行を成功させるための効率的で効果的な計画を立てるための、のガイドラインとベストプラクティスのフレームワークです。AWS CAF は、ビジネス、人材、ガバナンス、プラットフォーム、セキュリティ、運用という 6 つの重点分野にガイダンスを整理しています。ビジネス、人材、ガバナンスの観点では、ビジネススキルとプロセスに重点を置き、プラットフォーム、セキュリティ、オペレーションの視点は技術的なスキルとプロセスに焦点を当てています。例えば、人材の観点では、人事 (HR)、人材派遣機能、および人材管理を扱うステークホルダーを対象としています。この観点から、AWS CAF は人材開発、トレーニング、コミュニケーションに関するガイダンスを提供し、組織がクラウド導入を成功させるための準備を支援します。詳細については、[AWS CAF ウェブサイト](#)と [AWS CAF のホワイトペーパー](#) を参照してください。

AWS ワークロード認定フレームワーク (AWS WQF)

データベース移行ワークロードを評価し、移行戦略を推奨し、作業見積もりを提供するツール。AWS WQF は AWS Schema Conversion Tool (AWS SCT) に含まれています。データベーススキーマとコードオブジェクト、アプリケーションコード、依存関係、およびパフォーマンス特性を分析し、評価レポートを提供します。

B

不正なボット

個人や組織に混乱や損害を与えることを目的とした [ボット](#)。

BCP

「[ビジネス継続性計画 \(BCP\)](#)」をご覧ください。

動作グラフ

リソースの動作とインタラクションを経時的に示した、一元的なインタラクティブビュー。Amazon Detective の動作グラフを使用すると、失敗したログオンの試行、不審な API 呼び出し、その他同様のアクションを調べることができます。詳細については、Detective ドキュメントの「[動作グラフのデータ](#)」を参照してください。

ビッグエンディアンシステム

最上位バイトを最初に格納するシステム。「[エンディアン性](#)」もご覧ください。

二項分類

バイナリ結果 (2 つの可能なクラスのうちの一つ) を予測するプロセス。例えば、お客様の機械学習モデルで「この E メールはスパムですか、それともスパムではありませんか」などの問題を予測する必要があるかもしれません。または「この製品は書籍ですか、車ですか」などの問題を予測する必要があるかもしれません。

ブルームフィルター

要素がセットのメンバーであるかどうかをテストするために使用される、確率的でメモリ効率の高いデータ構造。

ブルー/グリーンデプロイ

それぞれが独立しているが、同一の環境を 2 つ作成するデプロイ戦略。現在のアプリケーションバージョンを 1 つの環境 (ブルー) で実行し、新しいアプリケーションバージョンを別の環境 (グリーン) で実行します。この戦略は、最小限の影響で迅速にロールバックするのに役立ちます。

ボット

インターネット経由で自動タスクを実行し、人間のアクティビティややり取りをシミュレートするソフトウェアアプリケーション。インターネット上の情報のインデックスを作成するウェブクローラーなど、一部のボットは有用または有益です。悪質なボットと呼ばれる他のボットの中には、個人や組織を混乱させたり、損害を与えたりすることを意図したものもあります。

ボットネット

[マルウェア](#)に感染しており、ボットハーダーまたはボットオペレーターと呼ばれる単一の当事者によって制御されている [ボット](#) のネットワーク。ボットネットは、ボットとその影響力を拡大する仕組みとして、非常によく知られています。

ブランチ

コードリポジトリに含まれる領域。リポジトリに最初に作成するブランチは、メインブランチといます。既存のブランチから新しいブランチを作成し、その新しいブランチで機能を開発したり、バグを修正したりできます。機能を構築するために作成するブランチは、通常、機能ブランチと呼ばれます。機能をリリースする準備ができたなら、機能ブランチをメインブランチに統合します。詳細については、「[ブランチの概要](#)」(GitHub ドキュメント)を参照してください。

ブレイクグラスアクセス

例外的な状況では、承認されたプロセスを通じて、ユーザーが AWS アカウント 通常アクセス許可を持たないにすばやくアクセスできるようにします。詳細については、AWS Well-Architected ガイドの「[ブレイクグラス手順の実装](#)」インジケータを参照してください。

ブラウフィールド戦略

環境の既存インフラストラクチャ。システムアーキテクチャにブラウフィールド戦略を導入する場合、現在のシステムとインフラストラクチャの制約に基づいてアーキテクチャを設計します。既存のインフラストラクチャを拡張している場合は、ブラウフィールド戦略と[グリーンフィールド](#)戦略を融合させることもできます。

バッファキャッシュ

アクセス頻度が最も高いデータが保存されるメモリ領域。

ビジネス能力

価値を生み出すためにビジネスが行うこと (営業、カスタマーサービス、マーケティングなど)。マイクロサービスのアーキテクチャと開発の決定は、ビジネス能力によって推進できます。詳細については、[AWSでのコンテナ化されたマイクロサービスの実行](#)ホワイトペーパーの「[ビジネス機能を中心に組織化](#)」セクションを参照してください。

ビジネス継続性計画 (BCP)

大規模移行など、中断を伴うイベントが運用に与える潜在的な影響に対処し、ビジネスを迅速に再開できるようにする計画。

C

CAF

「[AWS クラウド導入フレームワーク](#)」を参照してください

カナリアデプロイ

エンドユーザーへのバージョンリリースを、時間をかけて段階的に行うこと。確信が持てたら新規バージョンをデプロイして、現在のバージョン全体を置き換えます。

CCoE

「[Cloud Center of Excellence](#)」を参照してください。

CDC

「[変更データキャプチャ](#)」を参照してください。

変更データキャプチャ (CDC)

データソース (データベーステーブルなど) の変更を追跡し、その変更に関するメタデータを記録するプロセス。CDC は、ターゲットシステムでの変更を監査またはレプリケートして同期を維持するなど、さまざまな目的に使用できます。

カオスエンジニアリング

障害や破壊的なイベントを意図的に導入して、システムの耐障害性をテストすること。[AWS Fault Injection Service \(AWS FIS\)](#) を使用して、AWS ワークロードにストレスを与え、その応答を評価する実験を実行できます。

CI/CD

「[継続的インテグレーションと継続的デリバリー](#)」を参照してください。

分類

予測を生成するのに役立つ分類プロセス。分類問題の機械学習モデルは、離散値を予測します。離散値は、常に互いに区別されます。例えば、モデルがイメージ内に車があるかどうかを評価する必要がある場合があります。

クライアント側の暗号化

ターゲットがデータ AWS のサービスを受信する前のローカルでのデータの暗号化。

Cloud Center of Excellence (CCoE)

クラウドのベストプラクティスの作成、リソースの移動、移行のタイムラインの確立、大規模変革を通じて組織をリードするなど、組織全体のクラウド導入の取り組みを推進する学際的なチーム。詳細については、AWS クラウド エンタープライズ戦略ブログの [CCoE 投稿](#) を参照してください。

クラウドコンピューティング

リモートデータストレージと IoT デバイス管理に通常使用されるクラウドテクノロジー。クラウドコンピューティングは、一般的に、[エッジコンピューティング](#)に接続されています。

クラウド運用モデル

IT 組織において、1 つ以上のクラウド環境を構築、成熟、最適化するために使用される運用モデル。詳細については、「[クラウド運用モデルの構築](#)」を参照してください。

導入のクラウドステージ

組織が、AWS クラウドへの移行時に通常実行する 4 つの段階。

- プロジェクト — 概念実証と学習を目的として、クラウド関連のプロジェクトをいくつか実行する
- 基礎固め — お客様のクラウドの導入を拡大するための基礎的な投資 (ランディングゾーンの作成、CCoE の定義、運用モデルの確立など)
- 移行 — 個々のアプリケーションの移行
- 再発明 — 製品とサービスの最適化、クラウドでのイノベーション

これらのステージは、AWS クラウド エンタープライズ戦略ブログのブログ記事「[クラウドファーストへのジャーニー](#)」と「[導入のステージ](#)」で Stephen Orban によって定義されました。AWS 移行戦略との関連性については、「[移行準備ガイド](#)」を参照してください。

CMDB

「[構成管理データベース \(CMDB\)](#)」を参照してください。

コードリポジトリ

ソースコードやその他の資産 (ドキュメント、サンプル、スクリプトなど) が保存され、バージョン管理プロセスを通じて更新される場所。一般的なクラウドリポジトリには、GitHub や Bitbucket Cloud があります。コードの各バージョンはブランチと呼ばれます。マイクロサービスの構造では、各リポジトリは 1 つの機能専用です。1 つの CI/CD パイプラインで複数のリポジトリを使用できます。

コールドキャッシュ

空である、または、かなり空きがある、もしくは、古いデータや無関係なデータが含まれているバッファキャッシュ。データベースインスタンスはメインメモリまたはディスクから読み取る必要があり、バッファキャッシュから読み取るよりも時間がかかるため、パフォーマンスに影響します。

コールドデータ

めったにアクセスされず、通常は過去のデータです。この種類のデータをクエリする場合、通常は低速なクエリでも問題ありません。このデータを低パフォーマンスで安価なストレージ階層またはクラスに移動すると、コストを削減することができます。

コンピュータビジョン (CV)

機械学習を使用してデジタルイメージやビデオといった、ビジュアル形式の情報を分析および抽出する [AI](#) の分野。例えば、Amazon SageMaker AI では、CV 用の画像処理アルゴリズムを利用できます。

設定ドリフト

ワークロードにおいて、設定が想定した状態から変化すること。これによって、ワークロードが非準拠になる可能性があります。この状態は、徐々に生じ、意図的なものではありません。

構成管理データベース (CMDB)

データベースとその IT 環境 (ハードウェアとソフトウェアの両方のコンポーネントとその設定を含む) に関する情報を保存、管理するリポジトリ。通常、CMDB のデータは、移行のポートフォリオの検出と分析の段階で使用します。

コンフォーマンスパック

コンプライアンスチェックとセキュリティチェックをカスタマイズするためにアセンブルできる AWS Config ルールと修復アクションのコレクション。YAML テンプレートを使用して、コンフォーマンスパックを AWS アカウント および リージョンの単一のエンティティとしてデプロイすることも、組織全体にデプロイすることもできます。詳細については、AWS Config ドキュメントの「[コンフォーマンスパック](#)」を参照してください。

継続的インテグレーションと継続的デリバリー (CI/CD)

ソフトウェアリリースプロセスのソース、ビルド、テスト、ステージング、本番の各ステージを自動化するプロセス。CI/CD は一般的にパイプラインと呼ばれます。プロセスの自動化、生産性の向上、コード品質の向上、配信の加速化を可能にします。詳細については、「[継続的デリバリーの利点](#)」を参照してください。CD は継続的デプロイ (Continuous Deployment) の略語でもあります。詳細については「[継続的デリバリーと継続的なデプロイ](#)」を参照してください。

CV

「[コンピュータビジョン](#)」を参照してください。

D

保管中のデータ

ストレージ内にあるデータなど、常に自社のネットワーク内にあるデータ。

データ分類

ネットワーク内のデータを重要度と機密性に基づいて識別、分類するプロセス。データに適した保護および保持のコントロールを判断する際に役立つため、あらゆるサイバーセキュリティのリスク管理戦略において重要な要素です。データ分類は、AWS Well-Architected フレームワークのセキュリティの柱のコンポーネントです。詳細については、「[データ分類](#)」を参照してください。

データドリフト

実稼働データと ML モデルのトレーニングに使用されたデータとの間に有意な差異が生じたり、入力データが時間の経過と共に有意に変化したりすることです。データドリフトは、ML モデル予測の全体的な品質、精度、公平性を低下させる可能性があります。

転送中のデータ

ネットワーク内 (ネットワークリソース間など) を活発に移動するデータ。

データメッシュ

非一元的で分散型のデータ所有権を持つとともに、一元的な管理およびガバナンスを行えるアーキテクチャフレームワーク。

データ最小化

厳密に必要なデータのみを収集し、処理するという原則。データ最小化を実践 AWS クラウドすることで、プライバシーリスク、コスト、分析のカーボンフットプリントを削減できます。

データ境界

AWS 環境内の一連の予防ガードレール。信頼できる ID のみが、期待されるネットワークから信頼できるリソースにアクセスできるようにします。詳細については、「[AWS でのデータ境界の構築](#)」を参照してください。

データの前処理

raw データをお客様の機械学習モデルで簡単に解析できる形式に変換すること。データの前処理とは、特定の列または行を削除して、欠落している、矛盾している、または重複する値に対処することを意味します。

データ出所

データの生成、送信、保存の方法など、データのライフサイクル全体を通じてデータの出所と履歴を追跡するプロセス。

データ件名

データを収集、処理している個人。

データウェアハウス

分析などのビジネスインテリジェンスをサポートするデータ管理システム。データウェアハウスには、一般的に、大量の履歴データが含まれており、多くの場合、それらはクエリや分析に使用されます。

データベース定義言語 (DDL)

データベース内のテーブルやオブジェクトの構造を作成または変更するためのステートメントまたはコマンド。

データベース操作言語 (DML)

データベース内の情報を変更 (挿入、更新、削除) するためのステートメントまたはコマンド。

DDL

「[データベース定義言語](#)」を参照してください。

ディープアンサンブル

予測のために複数の深層学習モデルを組み合わせます。ディープアンサンブルを使用して、より正確な予測を取得したり、予測の不確実性を推定したりできます。

深層学習

人工ニューラルネットワークの複数層を使用して、入力データと対象のターゲット変数の間のマッピングを識別する機械学習サブフィールド。

多層防御

一連のセキュリティメカニズムとコントロールをコンピュータネットワーク全体に層状に重ねて、ネットワークとその内部にあるデータの機密性、整合性、可用性を保護する情報セキュリティの手法。この戦略を採用するときは AWS、リソースの保護に役立つように、AWS Organizations 構造の異なるレイヤーに複数のコントロールを追加します。たとえば、多層防御ア

アプローチでは、多要素認証、ネットワークセグメンテーション、暗号化を組み合わせることができます。

委任管理者

では AWS Organizations、互換性のあるサービスが AWS メンバーアカウントを登録して組織のアカウントを管理し、そのサービスのアクセス許可を管理できます。このアカウントを、そのサービスの委任管理者と呼びます。詳細、および互換性のあるサービスの一覧は、AWS Organizations ドキュメントの「[AWS Organizationsで利用できるサービス](#)」を参照してください。

トラブルシューティング

アプリケーション、新機能、コードの修正をターゲットの環境で利用できるようにするプロセス。デプロイでは、コードベースに変更を施した後、アプリケーションの環境でそのコードベースを構築して実行します。

開発環境

「[環境](#)」を参照してください。

検出管理

イベントが発生したときに、検出、ログ記録、警告を行うように設計されたセキュリティコントロール。これらのコントロールは副次的な防衛手段であり、実行中の予防的コントロールをすり抜けたセキュリティイベントをユーザーに警告します。詳細については、「AWSでのセキュリティコントロールの実装」の「[検出的コントロール](#)」を参照してください。

開発バリューストリームマッピング (DVSM)

ソフトウェア開発ライフサイクルのスピードと品質に悪影響を及ぼす制約を特定し、優先順位を付けるために使用されるプロセス。DVSM は、もともとリーンマニユファクチャリング・プラクティスのために設計されたバリューストリームマッピング・プロセスを拡張したものです。ソフトウェア開発プロセスを通じて価値を創造し、動かすために必要なステップとチームに焦点を当てています。

デジタルツイン

建物、工場、産業機器、生産ラインなど、現実世界のシステムを仮想的に表現したものです。デジタルツインは、予知保全、リモートモニタリング、生産最適化をサポートします。

ディメンションテーブル

[スタースキーマ](#)において、ファクトテーブルの定量データに関するデータ属性が含まれる小さいテーブル。ディメンションテーブルの属性は、通常、テキストフィールド、またはテキストのよ

うに扱える個別の数値で示されます。これらの属性は、一般的に、クエリの制約、フィルタリング、結果セットのラベル付けに使用されます。

ディザスタ

ワークロードまたはシステムが、導入されている主要な場所でのビジネス目標の達成を妨げるイベント。これらのイベントは、自然災害、技術的障害、または意図しない設定ミスやマルウェア攻撃などの人間の行動の結果である場合があります。

ディザスタリカバリ (DR)

[ディザスタ](#)によるダウンタイムとデータ損失を最小限に抑えるための戦略とプロセス。詳細については、AWS Well-Architected フレームワークの「[でのワークロードのディザスタリカバリ](#)」[AWS: クラウドでのリカバリ](#)」を参照してください。

DML

「[データベース操作言語](#)」を参照してください。

ドメイン駆動型設計

各コンポーネントが提供している変化を続けるドメイン、またはコアビジネス目標にコンポーネントを接続して、複雑なソフトウェアシステムを開発するアプローチ。この概念は、エリック・エヴァンスの著書、Domain-Driven Design: Tackling Complexity in the Heart of Software (ドメイン駆動設計:ソフトウェアの中心における複雑さへの取り組み) で紹介されています (ボストン: Addison-Wesley Professional、2003)。strangler fig パターンでドメイン駆動型設計を使用する方法の詳細については、「[コンテナと Amazon API Gateway を使用して、従来の Microsoft ASP.NET \(ASMX\) ウェブサービスを段階的にモダナイズ](#)」を参照してください。

DR

「[ディザスタリカバリ](#)」を参照してください。

ドリフト検出

ベースライン設定からの偏差を追跡します。たとえば、AWS CloudFormation を使用して[システムリソースのドリフトを検出](#)したり、を使用して AWS Control Tower、ガバナンス要件のコンプライアンスに影響を与える可能性のある[ランディングゾーンの変更を検出](#)したりできます。

DVSM

「[開発バリューSTREAMマッピング](#)」を参照してください。

E

EDA

「[探索的データ分析](#)」を参照してください。

EDI

「[電子データ交換](#)」を参照してください。

エッジコンピューティング

IoT ネットワークのエッジにあるスマートデバイスの計算能力を高めるテクノロジー。[クラウドコンピューティング](#)と比較すると、エッジコンピューティングは通信レイテンシーを短縮し、応答時間を改善できます。

電子データ交換 (EDI)

組織間で行う、ビジネスドキュメントの自動交換。詳細については、「[電子データ交換とは](#)」を参照してください。

暗号化

人間が読み取り可能なプレーンテキストデータを暗号文に変換するコンピューティング処理。

暗号化キー

暗号化アルゴリズムが生成した、ランダム化されたビットからなる暗号文字列。キーの長さは決まっておらず、各キーは予測できないように、一意になるように設計されています。

エンディアン

コンピュータメモリにバイトが格納される順序。ビッグエンディアンシステムでは、最上位バイトが最初に格納されます。リトルエンディアンシステムでは、最下位バイトが最初に格納されます。

エンドポイント

「[サービスエンドポイント](#)」を参照してください。

エンドポイントサービス

仮想プライベートクラウド (VPC) 内でホストして、他のユーザーと共有できるサービス。を使用してエンドポイントサービスを作成し AWS PrivateLink、他の AWS アカウント または AWS Identity and Access Management (IAM) プリンシパルにアクセス許可を付与できます。これら

のアカウントまたはプリンシパルは、インターフェイス VPC エンドポイントを作成することで、エンドポイントサービスにプライベートに接続できます。詳細については、Amazon Virtual Private Cloud (Amazon VPC) ドキュメントの「[エンドポイントサービスを作成する](#)」を参照してください。

エンタープライズリソースプランニング (ERP)

エンタープライズの主要なビジネスプロセス (会計、[MES](#)、プロジェクト管理など) を自動化および管理するシステム。

エンベロープ暗号化

暗号化キーを、別の暗号化キーを使用して暗号化するプロセス。詳細については、AWS Key Management Service (AWS KMS) ドキュメントの「[エンベロープ暗号化](#)」を参照してください。

環境

実行中のアプリケーションのインスタンス。クラウドコンピューティングにおける一般的な環境の種類は以下のとおりです。

- **開発環境** — アプリケーションのメンテナンスを担当するコアチームのみが利用できる、実行中のアプリケーションのインスタンス。開発環境は、上位の環境に昇格させる変更をテストするときに使用します。このタイプの環境は、テスト環境と呼ばれることもあります。
- **下位環境** — 初期ビルドやテストに使用される環境など、アプリケーションのすべての開発環境。
- **本番環境** — エンドユーザーがアクセスできる、実行中のアプリケーションのインスタンス。CI/CD パイプラインでは、本番環境が最後のデプロイ環境になります。
- **上位環境** — コア開発チーム以外のユーザーがアクセスできるすべての環境。これには、本番環境、本番前環境、ユーザー承認テスト環境などが含まれます。

エピック

アジャイル方法論で、お客様の作業の整理と優先順位付けに役立つ機能カテゴリ。エピックでは、要件と実装タスクの概要についてハイレベルな説明を提供します。例えば、AWS CAF セキュリティエピックには、ID とアクセスの管理、検出コントロール、インフラストラクチャセキュリティ、データ保護、インシデント対応が含まれます。AWS 移行戦略のエピックの詳細については、[プログラム実装ガイド](#)を参照してください。

ERP

「[エンタープライズリソース計画](#)」を参照してください。

探索的データ分析 (EDA)

データセットを分析してその主な特性を理解するプロセス。お客様は、データを収集または集計してから、パターンの検出、異常の検出、および前提条件のチェックのための初期調査を実行します。EDA は、統計の概要を計算し、データの可視化を作成することによって実行されます。

F

ファクトテーブル

[スタースキーマ](#)の中央にあるテーブル。ビジネスオペレーションに関する定量的データが保存されます。一般的に、ファクトテーブルは、2 種類の列で構成されます。1 つは測定値が含まれる列、もう 1 つはディメンションテーブルへの外部キーが含まれる列です。

フェイルファスト

開発ライフサイクルを短縮するために、頻繁かつ段階的にテストを行う哲学であり、アジャイルアプローチでは、この考え方がきわめて重要です。

障害分離境界

では AWS クラウド、障害の影響を制限し、ワークロードの耐障害性を高めるのに役立つアベイラビリティゾーン AWS リージョン、コントロールプレーン、データプレーンなどの境界。詳細については、「[AWS 障害分離境界](#)」を参照してください。

機能ブランチ

「[ブランチ](#)」を参照してください。

特徴量

お客様が予測に使用する入力データ。例えば、製造コンテキストでは、特徴量は製造ラインから定期的にキャプチャされるイメージの可能性もあります。

特徴量重要度

モデルの予測に対する特徴量の重要性。これは通常、Shapley Additive Deskonations (SHAP) や積分勾配など、さまざまな手法で計算できる数値スコアで表されます。詳細については、「[を使用した機械学習モデルの解釈可能性 AWS](#)」を参照してください。

機能変換

追加のソースによるデータのエンリッチ化、値のスケーリング、単一のデータフィールドからの複数の情報セットの抽出など、機械学習プロセスのデータを最適化すること。これにより、機械

学習モデルはデータの恩恵を受けることができます。例えば、「2021-05-27 00:15:37」の日付を「2021年」、「5月」、「木」、「15」に分解すると、学習アルゴリズムがさまざまなデータコンポーネントに関連する微妙に異なるパターンを学習するのに役立ちます。

数ショットプロンプト

[LLM](#) に、タスクと望ましい出力を示す例を少数提示した後に、類似のタスクを実行させること。この手法は、プロンプトに記述された例 (ショット) からモデルが学習する「インコンテキスト学習」の一種です。数ショットプロンプトは、特定のフォーマット、推論、専門知識が必要なタスクに効果的です。「[ゼロショットプロンプト](#)」も参照してください。

FGAC

「[きめ細かなアクセス制御](#)」を参照してください。

きめ細かなアクセス制御 (FGAC)

複数の条件を使用してアクセス要求を許可または拒否すること。

フラッシュカット移行

[変更データのキャプチャ](#) による継続的なデータ複製を利用して、段階的なアプローチではなく、可能な限り短時間でデータを移行するデータベース移行方法。目的はダウンタイムを最小限に抑えることです。

FM

「[基盤モデル](#)」を参照してください。

基盤モデル (FM)

大規模な深層学習ニューラルネットワークであり、一般化およびラベル付けされていないデータからなる大規模データセットでトレーニングされています。FM により、言語理解、テキストおよび画像生成、自然言語での会話といった、一般的な各種タスクを実行できます。詳細については、「[基盤モデルとは何ですか?](#)」を参照してください。

G

生成 AI

[AI](#) モデルのサブセット。大量のデータでトレーニングされており、シンプルなテキストプロンプトを使用して、画像、動画、テキスト、オーディオなどの新しいコンテンツやアーティファクトを作成できます。詳細については、「[生成 AI とは何ですか?](#)」を参照してください。

ジオブロッキング

「[地理的制限](#)」を参照してください。

地理的制限 (ジオブロッキング)

特定の国のユーザーがコンテンツ配信にアクセスできないようにするための、Amazon CloudFront のオプション。アクセスを許可する国と禁止する国は、許可リストまたは禁止リストを使って指定します。詳細については、CloudFront ドキュメントの「[コンテンツの地理的ディストリビューションの制限](#)」を参照してください。

Gitflow ワークフロー

下位環境と上位環境が、ソースコードリポジトリでそれぞれ異なるブランチを使用する方法。Gitflow ワークフローは古いと見なされている方法であり、[トランクベースのワークフロー](#)は推奨されている新しい方法です。

ゴールデンイメージ

システムまたはソフトウェアのスナップショットであり、システムまたはソフトウェアの新規インスタンスをデプロイするテンプレートとして使用されます。製造の例で言えば、ゴールデンイメージを使用すると、複数のデバイスにソフトウェアをプロビジョニングして、デバイス製造オペレーションの速度、スケーラビリティ、生産性を向上させることができます。

グリーンフィールド戦略

新しい環境に既存のインフラストラクチャが存在しないこと。システムアーキテクチャにグリーンフィールド戦略を導入する場合、既存のインフラストラクチャ (別名 [ブラウンフィールド](#)) との互換性の制約を受けることなく、あらゆる新しいテクノロジーを選択できます。既存のインフラストラクチャを拡張している場合は、ブラウンフィールド戦略とグリーンフィールド戦略を融合させることもできます。

ガードレール

組織単位 (OU) 全般のリソース、ポリシー、コンプライアンスを管理するのに役立つ概略的なルール。予防ガードレールは、コンプライアンス基準に一致するようにポリシーを実施します。これらは、サービスコントロールポリシーと IAM アクセス許可の境界を使用して実装されます。検出ガードレールは、ポリシー違反やコンプライアンス上の問題を検出し、修復のためのアラートを発信します。これらは AWS Config、AWS Security Hub CSPM、Amazon GuardDuty、AWS Trusted Advisor Amazon Inspector、およびカスタム AWS Lambda チェックを使用して実装されます。

H

HA

「[高可用性](#)」を参照してください。

異種混在データベースの移行

別のデータベースエンジンを使用するターゲットデータベースへお客様の出典データベースの移行 (例えば、Oracle から Amazon Aurora)。異種間移行は通常、アーキテクチャの再設計作業の一部であり、スキーマの変換は複雑なタスクになる可能性があります。[AWS は、スキーマの変換に役立つ AWS SCTを提供します。](#)

高可用性 (HA)

課題や災害が発生した場合に、介入なしにワークロードを継続的に運用できること。HA システムは、自動的にフェイルオーバーし、一貫して高品質のパフォーマンスを提供し、パフォーマンスへの影響を最小限に抑えながらさまざまな負荷や障害を処理するように設計されています。

ヒストリアンのモダナイゼーション

製造業のニーズによりよく応えるために、オペレーションテクノロジー (OT) システムをモダナイズし、アップグレードするためのアプローチ。ヒストリアンは、工場内のさまざまなソースからデータを収集して保存するために使用されるデータベースの一種です。

ホールドアウトデータ

[機械学習](#) モデルのトレーニング用データセットから保留される、ラベル付き履歴データの一部。ホールドアウトデータを使用すると、モデル予測をホールドアウトデータと比較して、モデルのパフォーマンスを評価できます。

同種データベースの移行

お客様の出典データベースを、同じデータベースエンジンを共有するターゲットデータベース (Microsoft SQL Server から Amazon RDS for SQL Server など) に移行する。同種間移行は、通常、リホストまたはリプラットフォーム化の作業の一部です。ネイティブデータベースユーティリティを使用して、スキーマを移行できます。

ホットデータ

リアルタイムデータや最近の翻訳データなど、頻繁にアクセスされるデータ。通常、このデータには高速なクエリ応答を提供する高性能なストレージ階層またはクラスが必要です。

ホットフィックス

本番環境の重大な問題を修正するために緊急で配布されるプログラム。緊急性が高いため、通常の DevOps のリリースワークフローからは外れた形で実施されます。

ハイパーケア期間

カットオーバー直後、移行したアプリケーションを移行チームがクラウドで管理、監視して問題に対処する期間。通常、この期間は 1~4 日です。ハイパーケア期間が終了すると、アプリケーションに対する責任は一般的に移行チームからクラウドオペレーションチームに移ります。

I

IaC

「[Infrastructure as Code](#)」を参照してください。

ID ベースのポリシー

AWS クラウド 環境内のアクセス許可を定義する 1 つ以上の IAM プリンシパルにアタッチされたポリシー。

アイドル状態のアプリケーション

90 日間の平均的な CPU およびメモリ使用率が 5~20% のアプリケーション。移行プロジェクトでは、これらのアプリケーションを廃止するか、オンプレミスに保持するのが一般的です。

IIoT

「[インダストリアル IIoT](#)」を参照してください。

イミュータブルインフラストラクチャ

既存インフラストラクチャの更新、パッチ適用、変更などを行わずに、本番環境ワークロードに使用する新規インフラストラクチャをデプロイするモデル。本質的に、イミュータブルインフラストラクチャは、[ミュータブルインフラストラクチャ](#)よりも一貫性、信頼性、予測性に優れています。詳細については、AWS Well-Architected フレームワークにある「[イミュータブルインフラストラクチャを使用してデプロイする](#)」のベストプラクティスを参照してください。

インバウンド (受信) VPC

AWS マルチアカウントアーキテクチャでは、アプリケーションの外部からネットワーク接続を受け入れ、検査し、ルーティングする VPC。[AWS Security Reference Architecture](#) では、アプリ

ケーションとより広範なインターネット間の双方向のインターフェイスを保護するために、インバウンド、アウトバウンド、インスぺクションの各 VPC を使用してネットワークアカウントを設定することを推奨しています。

増分移行

アプリケーションを 1 回ですべてカットオーバーするのではなく、小さい要素に分けて移行するカットオーバー戦略。例えば、最初は少数のマイクロサービスまたはユーザーのみを新しいシステムに移行する場合があります。すべてが正常に機能することを確認できたら、残りのマイクロサービスやユーザーを段階的に移行し、レガシーシステムを廃止できるようにします。この戦略により、大規模な移行に伴うリスクが軽減されます。

インダストリー 4.0

2016 年に [Klaus Schwab](#) 氏が提唱した用語で、接続、リアルタイムデータ、オートメーション、分析、AI/ML の進歩による、ビジネスプロセスのモダナイズを意味します。

インフラストラクチャ

アプリケーションの環境に含まれるすべてのリソースとアセット。

Infrastructure as Code (IaC)

アプリケーションのインフラストラクチャを一連の設定ファイルを使用してプロビジョニングし、管理するプロセス。IaC は、新しい環境を再現可能で信頼性が高く、一貫性のあるものにするため、インフラストラクチャを一元的に管理し、リソースを標準化し、スケールを迅速に行えるように設計されています。

インダストリアル IoT (IIoT)

製造、エネルギー、自動車、ヘルスケア、ライフサイエンス、農業などの産業部門におけるインターネットに接続されたセンサーやデバイスの使用。詳細については、「[インダストリアル IoT \(IIoT\) デジタルトランスフォーメーション戦略の構築](#)」を参照してください。

インスぺクション VPC

AWS マルチアカウントアーキテクチャでは、VPC (同一または異なる 内 AWS リージョン)、インターネット、オンプレミスネットワーク間のネットワークトラフィックの検査を管理する一元化された VPCs。 [AWS Security Reference Architecture](#) では、アプリケーションとより広範なインターネット間の双方向のインターフェイスを保護するために、インバウンド、アウトバウンド、インスぺクションの各 VPC を使用してネットワークアカウントを設定することを推奨しています。

IoT

インターネットまたはローカル通信ネットワークを介して他のデバイスやシステムと通信する、センサーまたはプロセッサが組み込まれた接続済み物理オブジェクトのネットワーク。詳細については、「[IoT とは](#)」を参照してください。

解釈可能性

機械学習モデルの特性で、モデルの予測がその入力にどのように依存するかを人間が理解できる度合いを表します。詳細については、「[を使用した機械学習モデルの解釈可能性 AWS](#)」を参照してください。

IoT

「[IoT](#)」を参照してください。

IT 情報ライブラリ (ITIL)

IT サービスを提供し、これらのサービスをビジネス要件に合わせるための一連のベストプラクティス。ITIL は ITSM の基盤を提供します。

IT サービス管理 (ITSM)

組織の IT サービスの設計、実装、管理、およびサポートに関連する活動。クラウドオペレーションと ITSM ツールの統合については、「[オペレーション統合ガイド](#)」を参照してください。

ITIL

「[IT 情報ライブラリ](#)」を参照してください。

ITSM

「[IT サービス管理](#)」を参照してください。

L

ラベルベースアクセス制御 (LBAC)

強制アクセス制御 (MAC) の実装で、ユーザーとデータ自体にそれぞれセキュリティラベル値が明示的に割り当てられます。ユーザーセキュリティラベルとデータセキュリティラベルが交差する部分によって、ユーザーに表示される行と列が決まります。

ランディングゾーン

ランディングゾーンは、スケーラブルで安全な、適切に設計されたマルチアカウント AWS 環境です。これは、組織がセキュリティおよびインフラストラクチャ環境に自信を持ってワークロードとアプリケーションを迅速に起動してデプロイできる出発点です。ランディングゾーンの詳細については、「[安全でスケーラブルなマルチアカウント AWS 環境のセットアップ](#)」を参照してください。

大規模言語モデル (LLM)

大量のデータで事前トレーニングされた深層学習 AI モデル。LLM では、質問への回答、ドキュメントの要約、他言語へのテキスト翻訳、文を完成させるなど、さまざまなタスクを実行できます。詳細については、「[大規模言語モデル \(LLM\) とは何ですか?](#)」を参照してください。

大規模な移行

300 台以上のサーバの移行。

LBAC

「[ラベルベースアクセス制御](#)」を参照してください。

最小特権

タスクの実行には必要最低限の権限を付与するという、セキュリティのベストプラクティス。詳細については、IAM ドキュメントの「[最小特権アクセス許可を適用する](#)」を参照してください。

リフトアンドシフト

「[7 Rs](#)」を参照してください。

リトルエンディアンシステム

最下位バイトを最初に格納するシステム。「[エンディアン性](#)」もご覧ください。

LLM

「[大規模言語モデル](#)」を参照してください。

下位環境

「[環境](#)」を参照してください。

M

機械学習 (ML)

パターン認識と学習にアルゴリズムと手法を使用する人工知能の一種。ML は、モノのインターネット (IoT) データなどの記録されたデータを分析して学習し、パターンに基づく統計モデルを生成します。詳細については、「[機械学習](#)」を参照してください。

メインブランチ

「[ブランチ](#)」を参照してください。

マルウェア

コンピュータのセキュリティやプライバシーを侵害するように設計されたソフトウェア。マルウェアは、コンピュータシステムの中断、機密情報の漏洩、不正アクセスを招く可能性があります。マルウェアの例には、ウイルス、ワーム、ランサムウェア、トロイの木馬、スパイウェア、キーロガーなどがあります。

マネージドサービス

AWS のサービスはインフラストラクチャレイヤー、オペレーティングシステム、プラットフォーム AWS を運用し、エンドポイントにアクセスしてデータを保存および取得します。マネージドサービスの例として、Amazon Simple Storage Service (Amazon S3) と Amazon DynamoDB が挙げられます。このサービスは、抽象化されたサービスとも呼ばれます。

製造実行システム (MES)

生産プロセスを追跡、モニタリング、文書化、制御するソフトウェアシステムであり、工場では、これによって、原材料から製品を完成させます。

MAP

「[Migration Acceleration Program](#)」を参照してください。

メカニズム

ツールを作成してその導入を推進し、導入結果を調べて調整を行うための包括的なプロセス。メカニズムとは、運用中にそれ自体を強化し改善するサイクルを意味します。詳細については、AWS 「Well-Architected フレームワーク」の「[メカニズムの構築](#)」を参照してください。

メンバーアカウント

組織の一部である管理アカウント AWS アカウント 以外のすべて AWS Organizations。アカウントが組織のメンバーになることができるのは、一度に 1 つのみです。

MES

[「製造実行システム」](#)を参照してください。

Message Queuing Telemetry Transport (MQTT)

[発行/サブスクリプション](#)のパターンに基づく、軽量のマシンツーマシン (M2M) 通信プロトコルであり、リソースに限りのある [IoT](#) デバイスに使用されます。

マイクロサービス

明確に定義された API を介して通信し、通常は小規模な自己完結型のチームが所有する、小規模で独立したサービスです。例えば、保険システムには、販売やマーケティングなどのビジネス機能、または購買、請求、分析などのサブドメインにマッピングするマイクロサービスが含まれる場合があります。マイクロサービスの利点には、俊敏性、柔軟なスケーリング、容易なデプロイ、再利用可能なコード、回復力などがあります。詳細については、[AWS「サーバーレスサービスを使用したマイクロサービスの統合」](#)を参照してください。

マイクロサービスアーキテクチャ

各アプリケーションプロセスをマイクロサービスとして実行する独立したコンポーネントを使用してアプリケーションを構築するアプローチ。これらのマイクロサービスは、軽量 API を使用して、明確に定義されたインターフェイスを介して通信します。このアーキテクチャの各マイクロサービスは、アプリケーションの特定の機能に対する需要を満たすように更新、デプロイ、およびスケーリングできます。詳細については、「[でのマイクロサービスの実装 AWS](#)」を参照してください。

Migration Acceleration Program (MAP)

組織がクラウドに移行するための強力な運用基盤を構築し、移行の初期コストを相殺するのに役立つコンサルティングサポート、トレーニング、サービスを提供する AWS プログラム。MAP には、組織的な方法でレガシー移行を実行するための移行方法論と、一般的な移行シナリオを自動化および高速化する一連のツールが含まれています。

大規模な移行

アプリケーションポートフォリオの大部分を次々にクラウドに移行し、各ウェーブでより多くのアプリケーションを高速に移動させるプロセス。この段階では、以前の段階から学んだベストプラクティスと教訓を使用して、移行ファクトリー チーム、ツール、プロセスのうち、オートメーションとアジャイルデリバリーによってワークロードの移行を合理化します。これは、[AWS 移行戦略](#) の第 3 段階です。

移行ファクトリー

自動化された俊敏性のあるアプローチにより、ワークロードの移行を合理化する部門横断的なチーム。移行ファクトリーチームには、通常、運用、ビジネスアナリストおよび所有者、移行エンジニア、デベロッパー、およびスプリントで作業する DevOps プロフェッショナルが含まれます。エンタープライズアプリケーションポートフォリオの 20~50% は、ファクトリーのアプローチによって最適化できる反復パターンで構成されています。詳細については、このコンテンツセットの[移行ファクトリーに関する解説](#)と[Cloud Migration Factory ガイド](#)を参照してください。

移行メタデータ

移行を完了するために必要なアプリケーションおよびサーバーに関する情報。移行パターンごとに、異なる一連の移行メタデータが必要です。移行メタデータの例としては、ターゲットサブネット、セキュリティグループ、AWS アカウントなどがあります。

移行パターン

移行戦略、移行先、および使用する移行アプリケーションまたはサービスを詳述する、反復可能な移行タスク。例: AWS Application Migration Service を使用して Amazon EC2 への移行をリホストします。

Migration Portfolio Assessment (MPA)

オンラインツール。これによって、AWS クラウドに移行するビジネスケースの検証に必要な情報を得られます。MPA は、詳細なポートフォリオ評価 (サーバーの適切なサイジング、価格設定、TCO 比較、移行コスト分析) および移行プラン (アプリケーションデータの分析とデータ収集、アプリケーションのグループ化、移行の優先順位付け、およびウェーブプランニング) を提供します。[MPA ツール](#) (ログインが必要) は、すべての AWS コンサルタントと APN パートナー コンサルタントが無料で利用できます。

移行準備状況評価 (MRA)

AWS CAF を使用して、組織のクラウド準備状況に関するインサイトを取得し、長所と短所を特定し、特定されたギャップを埋めるためのアクションプランを構築するプロセス。詳細については、[移行準備状況ガイド](#)を参照してください。MRA は、[AWS 移行戦略](#)の第一段階です。

移行戦略

ワークロードを AWS クラウドに移行するために使用するアプローチ。詳細については、この用語集の [7 Rs](#) エントリと、「[組織を動員して大規模な移行を加速する](#)」を参照してください。

ML

「[機械学習](#)」を参照してください。

モダナイゼーション

古い(レガシーまたはモノリシック)アプリケーションとそのインフラストラクチャをクラウド内の俊敏で弾力性のある高可用性システムに変換して、コストを削減し、効率を高め、イノベーションを活用します。詳細については、「[AWS クラウドでのアプリケーションのモダナイズ戦略](#)」を参照してください。

モダナイゼーション準備状況評価

組織のアプリケーションのモダナイゼーションの準備状況を判断し、利点、リスク、依存関係を特定し、組織がこれらのアプリケーションの将来の状態をどの程度適切にサポートできるかを決定するのに役立つ評価。評価の結果として、ターゲットアーキテクチャのブループリント、モダナイゼーションプロセスの開発段階とマイルストーンを詳述したロードマップ、特定されたギャップに対処するためのアクションプランが得られます。詳細については、「[AWS クラウドでのアプリケーションのモダナイゼーションの準備状況を評価する](#)」を参照してください。

モノリシックアプリケーション(モノリス)

緊密に結合されたプロセスを持つ単一のサービスとして実行されるアプリケーション。モノリシックアプリケーションにはいくつかの欠点があります。1つのアプリケーション機能エクスペリエンスの需要が急増する場合は、アーキテクチャ全体をスケーリングする必要があります。モノリシックアプリケーションの特徴を追加または改善することは、コードベースが大きくなると複雑になります。これらの問題に対処するには、マイクロサービスアーキテクチャを使用できます。詳細については、「[モノリスをマイクロサービスに分解する](#)」を参照してください。

MPA

「[Migration Portfolio Assessment](#)」を参照してください。

MQTT

「[Message Queuing Telemetry Transport](#)」を参照してください。

多クラス分類

複数のクラスの予測を生成するプロセス(2つ以上の結果の1つを予測します)。例えば、機械学習モデルが、「この製品は書籍、自動車、電話のいずれですか?」または、「このお客様にとって最も関心のある商品のカテゴリはどれですか?」と聞くかもしれません。

ミュータブルなインフラストラクチャ

本番ワークロードに使用する既存のインフラストラクチャを更新および変更するためのモデル。Well-Architected AWS フレームワークでは、一貫性、信頼性、予測可能性を向上させるために、[イミュータブルインフラストラクチャ](#)の使用をベストプラクティスとして推奨しています。

O

OAC

「[オリジンアクセス制御](#)」を参照してください。

OAI

「[オリジンアクセスアイデンティティ](#)」を参照してください。

OCM

「[組織変更管理](#)」を参照してください。

オフライン移行

移行プロセス中にソースワークロードを停止させる移行方法。この方法はダウンタイムが長くなるため、通常は重要ではない小規模なワークロードに使用されます。

OI

「[オペレーション統合](#)」を参照してください。

Ola

「[オペレーショナルレベルアグリーメント](#)」を参照してください。

オンライン移行

ソースワークロードをオフラインにせずターゲットシステムにコピーする移行方法。ワークロードに接続されているアプリケーションは、移行中も動作し続けることができます。この方法はダウンタイムがゼロから最小限で済むため、通常は重要な本番稼働環境のワークロードに使用されます。

OPC-UA

「[Open Process Communications - Unified Architecture](#)」を参照してください。

Open Process Communications - Unified Architecture (OPC-UA)

産業オートメーション用のマシンツーマシン (M2M) 通信プロトコル。OPC-UA により、相互運用の際に、データ暗号化、認証、認可の各スキームを標準化できます。

オペレーショナルレベルアグリーメント (OLA)

サービスレベルアグリーメント (SLA) をサポートするために、どの機能的 IT グループが互いに提供することを約束するかを明確にする契約。

運用準備状況レビュー (ORR)

質問と関連するベストプラクティスのチェックリスト。インシデントや起こり得る障害を理解、評価、防止したり、その範囲を縮小したりする際に役立ちます。詳細については、AWS Well-Architected フレームワークの「[Operational Readiness Reviews \(ORR\)](#)」を参照してください。

運用テクノロジー (OT)

産業オペレーション、機器、インフラストラクチャを制御するために物理環境と連携させるハードウェアおよびソフトウェアシステム。製造分野では、[Industry 4.0](#) への変革を進める上で、OT と情報技術 (IT) システムの統合に焦点が当てられています。

オペレーション統合 (OI)

クラウドでオペレーションをモダナイズするプロセスには、準備計画、オートメーション、統合が含まれます。詳細については、[オペレーション統合ガイド](#)を参照してください。

組織の証跡

組織 AWS アカウント 内のすべての のすべてのイベント AWS CloudTrail をログに記録する によって作成された証跡 AWS Organizations。証跡は、組織に含まれている各 AWS アカウント に作成され、各アカウントのアクティビティを追跡します。詳細については、CloudTrail ドキュメントの「[組織の証跡の作成](#)」を参照してください。

組織変更管理 (OCM)

人材、文化、リーダーシップの観点から、主要な破壊的なビジネス変革を管理するためのフレームワーク。OCM は、変化の導入を加速し、移行問題に対処し、文化や組織の変化を推進することで、組織が新しいシステムと戦略の準備と移行するのを支援します。AWS 移行戦略では、クラウド導入プロジェクトに必要な変化のスピードにより、このフレームワークは人材アクセラレーションと呼ばれます。詳細については、[OCM ガイド](#)を参照してください。

オリジンアクセス制御 (OAC)

Amazon Simple Storage Service (Amazon S3) コンテンツを保護するための、CloudFront のアクセス制限の強化オプション。OAC は AWS リージョン、すべての S3 バケット、AWS KMS (SSE-KMS) によるサーバー側の暗号化、S3 バケットへの動的 PUT および DELETE リクエストをサポートします。

オリジンアクセスアイデンティティ (OAI)

CloudFront の、Amazon S3 コンテンツを保護するためのアクセス制限オプション。OAI を使用すると、CloudFront が、Amazon S3 に認証可能なプリンシパルを作成します。認証されたプリンシパルは、S3 バケット内のコンテンツに、特定の CloudFront ディストリビューションを介してのみアクセスできます。[OAC](#) も併せて参照してください。OAC では、より詳細な、強化されたアクセス制御が可能です。

ORR

[「運用準備状況レビュー」](#) を参照してください。

OT

[「運用テクノロジー」](#) を参照してください。

アウトバウンド (送信) VPC

AWS マルチアカウントアーキテクチャでは、アプリケーション内から開始されたネットワーク接続を処理する VPC。[AWS Security Reference Architecture](#) では、アプリケーションとより広範なインターネット間の双方向のインターフェイスを保護するために、インバウンド、アウトバウンド、インスプレクションの各 VPC を使用してネットワークアカウントを設定することを推奨しています。

P

アクセス許可の境界

ユーザーまたはロールが使用できるアクセス許可の上限を設定する、IAM プリンシパルにアタッチされる IAM 管理ポリシー。詳細については、IAM ドキュメントの[アクセス許可の境界](#)を参照してください。

個人を特定できる情報 (PII)

直接閲覧した場合、または他の関連データと組み合わせた場合に、個人の身元を合理的に推測するために使用できる情報。PII の例には、氏名、住所、連絡先情報などがあります。

P11

「[個人を特定できる情報](#)」を参照してください。

プレイブック

クラウドでのコアオペレーション機能の提供など、移行に関連する作業を取り込む、事前定義された一連のステップ。プレイブックは、スクリプト、自動ランブック、またはお客様のモダナイズされた環境を運用するために必要なプロセスや手順の要約などの形式をとることができます。

PLC

「[プログラマブルロジックコントローラー](#)」を参照してください。

PLM

「[製品ライフサイクル管理](#)」を参照してください。

ポリシー

次の操作を可能にするオブジェクト: アクセス許可を定義する ([ID ベースのポリシー](#)を参照)。アクセス条件を指定する ([リソースベースのポリシー](#)を参照)。AWS Organizations の組織における全アカウントにアクセス許可の上限を定義する ([サービスコントロールポリシー](#)を参照)。

多言語の永続性

データアクセスパターンやその他の要件に基づいて、マイクロサービスのデータストレージテクノロジーを個別に選択します。マイクロサービスが同じデータストレージテクノロジーを使用している場合、実装上の問題が発生したり、パフォーマンスが低下する可能性があります。マイクロサービスは、要件に最も適合したデータストアを使用すると、より簡単に実装でき、パフォーマンスとスケーラビリティが向上します。

ポートフォリオ評価

移行を計画するために、アプリケーションポートフォリオの検出、分析、優先順位付けを行うプロセス。詳細については、「[移行の準備状況の評価](#)」を参照してください。

述語

true または false を返すためのクエリ条件。一般的に、WHERE 句に記述されます。

述語プッシュダウン

データベースクエリを最適化する手法。これによって、転送前にクエリ内のデータをフィルタリングします。この手法を取ると、リレーショナルデータベースから取得し処理する必要のあるデータの量が減少するため、クエリのパフォーマンスが向上します。

予防的コントロール

イベントの発生を防ぐように設計されたセキュリティコントロール。このコントロールは、ネットワークへの不正アクセスや好ましくない変更を防ぐ最前線の防御です。詳細については、「AWSでのセキュリティコントロールの実装」の「[予防的コントロール](#)」を参照してください。

プリンシパル

アクションを実行し AWS、リソースにアクセスできるのエンティティ。このエンティティは通常、IAM AWS アカウントロール、またはユーザーのルートユーザーです。詳細については、IAM ドキュメントの「[ロールに関する用語と概念](#)」にあるプリンシパルを参照してください。

プライバシーバイデザイン

開発プロセス全体を通してプライバシーが考慮されているシステムエンジニアリングのアプローチ。

プライベートホストゾーン

1つ以上の VPC 内のドメインとそのサブドメインへの DNS クエリに対し、Amazon Route 53 がどのように応答するかに関する情報を保持するコンテナ。詳細については、Route 53 ドキュメントの「[プライベートホストゾーンの使用](#)」を参照してください。

プロアクティブコントロール

非準拠リソースのデプロイ防止を目的とした[セキュリティコントロール](#)。このコントロールにより、プロビジョニング前にリソースをスキャンします。コントロールに準拠していないリソースは、プロビジョニングされません。詳細については、AWS Control Tower ドキュメントの「[コントロールリファレンスガイド](#)」および「[セキュリティコントロールの実装](#)」の「[プロアクティブコントロール](#)」を参照してください。 AWS

製品ライフサイクル管理 (PLM)

製品の設計、開発、発売から、成長、成熟、衰退、廃棄に至る、製品のライフサイクル全体を通してデータとプロセスを管理すること。

本番環境

「[環境](#)」を参照してください。

プログラマブルロジックコントローラー (PLC)

製造分野で使用される、信頼性と適応性に優れたコンピュータであり、これによって、マシンをモニタリングするとともに、製造プロセスを自動化します。

プロンプトチェイニング

1つの [LLM](#) プロンプトによる出力を次のプロンプトの入力に使用して、より良いレスポンスを生成します。この手法を使用すると、複雑なタスクをサブタスクに分割したり、事前レスポンスを繰り返し改良または拡張したりできます。これによって、モデルのレスポンスの精度と関連性が向上し、粒度の高いパーソナライズされた結果を得られます。

仮名化

データセット内の個人識別子をプレースホルダー値に置き換えるプロセス。仮名化は個人のプライバシー保護に役立ちます。仮名化されたデータは、依然として個人データとみなされます。

発行/サブスクライブ (pub/sub)

マイクロサービス間の非同期通信を可能にするパターン。これにより、スケーラビリティと応答性を向上させます。例えば、マイクロサービスベースの [MES](#) の場合、マイクロサービスは、他のマイクロサービスがサブスクライブ可能なチャンネルにイベントメッセージを発行できます。このシステムでは、発行サービスの変更なしに、新規マイクロサービスを追加できます。

Q

クエリプラン

手順などの一連のステップであり、SQL リレーショナルデータベースシステムのデータにアクセスするために使用されます。

クエリプランのリグレッション

データベースサービスのオプティマイザーが、データベース環境に特定の変更が加えられる前に選択されたプランよりも最適性の低いプランを選択すること。これは、統計、制限事項、環境設定、クエリパラメータのバインディングの変更、およびデータベースエンジンの更新などが原因である可能性があります。

R

RACI マトリックス

「[実行責任者、説明責任者、協業先、報告先 \(RACI\)](#)」を参照してください。

RAG

「[検索拡張生成](#)」を参照してください。

ランサムウェア

決済が完了するまでコンピュータシステムまたはデータへのアクセスをブロックするように設計された、悪意のあるソフトウェア。

RASCI マトリックス

「[実行責任者、説明責任者、協業先、報告先 \(RACI\)](#)」を参照してください。

RCAC

「[行と列のアクセス制御](#)」を参照してください。

リードレプリカ

読み取り専用で使用されるデータベースのコピー。クエリをリードレプリカにルーティングして、プライマリデータベースへの負荷を軽減できます。

リアーキテクト

「[7 Rs](#)」を参照してください。

目標復旧時点 (RPO)

最後のデータリカバリポイントからの最大許容時間です。これにより、最後の回復時点からサービスが中断されるまでの間に許容できるデータ損失の程度が決まります。

目標復旧時間 (RTO)

サービス中断から復旧までの最大許容遅延時間。

リファクタリング

「[7 Rs](#)」を参照してください。

リージョン

地理的エリア内の AWS リソースのコレクション。各 AWS リージョンは、耐障害性、安定性、耐障害性を提供するために、他のから分離され、独立しています。詳細については、「[アカウントが使用できる AWS リージョンを指定する](#)」を参照してください。

リグレッション

数値を予測する機械学習手法。例えば、「この家はどれくらいの値段で売れるでしょうか?」という問題を解決するために、機械学習モデルは、線形回帰モデルを使用して、この家に関する既知の事実 (平方フィートなど) に基づいて家の販売価格を予測できます。

リホスト

「[7 Rs](#)」を参照してください。

リリース

デプロイプロセスで、変更を本番環境に昇格させること。

再配置

「[7 Rs](#)」を参照してください。

リプラットフォーム

「[7 Rs](#)」を参照してください。

再購入

「[7 Rs](#)」を参照してください。

回復性

中断に抵抗または中断から回復するアプリケーションの機能。AWS クラウドでの回復力を計画する際には、一般的に、[高可用性](#)と[ディザスタリカバリ](#)が考慮されます。詳細については、「[AWS クラウドの耐障害性](#)」を参照してください。

リソースベースのポリシー

Amazon S3 バケット、エンドポイント、暗号化キーなどのリソースにアタッチされたポリシー。このタイプのポリシーは、アクセスが許可されているプリンシパル、サポートされているアクション、その他の満たすべき条件を指定します。

実行責任者、説明責任者、協業先、報告先 (RACI) に基づくマトリックス

移行活動とクラウド運用に関わるすべての関係者の役割と責任を定義したマトリックス。マトリックスの名前は、マトリックスで定義されている責任の種類、すなわち責任 (R)、説明責任 (A)、協議 (C)、情報提供 (I) に由来します。サポート (S) タイプはオプションです。サポートが含まれる場合は RASCI マトリックスと呼ばれ、含まれない場合は RACI マトリックスと呼ばれます。

レスポンスコントロール

有害事象やセキュリティベースラインからの逸脱について、修復を促すように設計されたセキュリティコントロール。詳細については、「AWSでのセキュリティコントロールの実装」の「[レスポンスコントロール](#)」を参照してください。

保持

「[7 Rs](#)」を参照してください。

廃止

「[7 Rs](#)」を参照してください。

検索拡張生成 (RAG)

[生成 AI](#) の技術。これにより、[LLM](#) では、レスポンスの生成前に、トレーニングデータソースの外部にある信頼できるデータソースが参照されます。例えば、RAG モデルによって、組織のナレッジベースまたはカスタムデータのセマンティック検索を実行できる場合があります。細については、「[RAG \(検索拡張生成\) とは何ですか?](#)」を参照してください。

ローテーション

定期的に[シークレット情報](#)を更新して、攻撃者が認証情報にアクセスするのをより困難にするプロセス。

行と列のアクセス制御 (RCAC)

アクセスルールが定義された、基本的で柔軟な SQL 表現の使用。RCAC は行権限と列マスクで構成されています。

RPO

「[目標復旧時点](#)」を参照してください。

RTO

「[目標復旧時間](#)」を参照してください。

ランブック

特定のタスクを実行するために必要な手動または自動化された一連の手順。これらは通常、エラー率の高い反復操作や手順を合理化するために構築されています。

S

SAML 2.0

多くの ID プロバイダー (IdP) が使用しているオープンスタンダード。この機能を使用すると、フェデレーティッドシングルサインオン (SSO) が有効になるため、ユーザーは組織内のすべて

のユーザーを IAM で作成しなくても、AWS マネジメントコンソール にログインしたり AWS、API オペレーションを呼び出すことができます。SAML 2.0 ベースのフェデレーションの詳細については、IAM ドキュメントの「[SAML 2.0 ベースのフェデレーションについて](#)」を参照してください。

SCADA

「[監視制御とデータ取得](#)」を参照してください。

SCP

「[サービスコントロールポリシー](#)」を参照してください。

シークレット

暗号化された形式で保存する AWS Secrets Manager パスワードやユーザー認証情報などの機密情報または制限付き情報。シークレット値とそのメタデータで構成されます。シークレット値には、バイナリ、1つの文字列、複数の文字列を指定できます。詳細については、Secrets Manager ドキュメントの「[Secrets Manager シークレットの概要](#)」を参照してください。

セキュリティバイデザイン

開発プロセス全体を通してセキュリティが考慮されているシステムエンジニアリングのアプローチ。

セキュリティコントロール

脅威アクターによるセキュリティ脆弱性の悪用を防止、検出、軽減するための、技術上または管理上のガードレール。セキュリティコントロールには、主に4つの種類があります。4つとは、[予防](#)、[検出](#)、[レスポンス](#)、[プロアクティブ](#)です。

セキュリティ強化

アタックサーフェスを狭めて攻撃への耐性を高めるプロセス。このプロセスには、不要になったリソースの削除、最小特権を付与するセキュリティのベストプラクティスの実装、設定ファイル内の不要な機能の無効化、といったアクションが含まれています。

Security Information and Event Management (SIEM) システム

セキュリティ情報管理 (SIM) とセキュリティイベント管理 (SEM) のシステムを組み合わせたツールとサービス。SIEM システムは、サーバー、ネットワーク、デバイス、その他ソースからデータを収集、モニタリング、分析して、脅威やセキュリティ違反を検出し、アラートを発信します。

セキュリティレスポンスの自動化

セキュリティイベントへの自動レスポンスまたは自動修復を目的として、事前定義およびプログラムされたアクション。これらの自動化は、セキュリティのベストプラクティスを実装するのに役立つ**検出的**または**応答的**な AWS セキュリティコントロールとして機能します。自動レスポンスアクションの例には、VPC セキュリティグループの変更、Amazon EC2 インスタンスへのパッチ適用、認証情報の更新などがあります。

サーバー側の暗号化

送信先で、それ AWS のサービス を受け取る によるデータの暗号化。

サービスコントロールポリシー (SCP)

AWS Organizationsの組織内の、すべてのアカウントのアクセス許可を一元的に管理するポリシー。SCP は、管理者がユーザーまたはロールに委任するアクションに、ガードレールを定義したり、アクションの制限を設定したりします。SCP は、許可リストまたは拒否リストとして、許可または禁止するサービスやアクションを指定する際に使用できます。詳細については、AWS Organizations ドキュメントの「[サービスコントロールポリシー](#)」を参照してください。

サービスエンドポイント

のエンドポイントの URL AWS のサービス。ターゲットサービスにプログラムで接続するには、エンドポイントを使用します。詳細については、「AWS 全般のリファレンス」の「[AWS のサービス エンドポイント](#)」を参照してください。

サービスレベルアグリーメント (SLA)

サービスのアップタイムやパフォーマンスなど、IT チームがお客様に提供すると約束したものを明示した合意書。

サービスレベルインジケータ (SLI)

エラー率、可用性、スループットといった、サービスパフォーマンス面の指標。

サービスレベル目標 (SLO)

[サービスレベルインジケータ](#)によって測定され、サービスの状態を表すターゲットメトリクス。

責任共有モデル

クラウドのセキュリティとコンプライアンス AWS について と共有する責任を説明するモデル。AWS はクラウドのセキュリティを担当しますが、 はクラウドのセキュリティを担当します。詳細については、「[責任共有モデル](#)」を参照してください。

SIEM

「[Security Information and Event Management システム](#)」を参照してください。

単一障害点 (SPOF)

特定のアプリケーションを構成する単一の重要なコンポーネントで発生し、システム稼働に支障をきたす可能性のある障害。

SLA

「[サービスレベルアグリーメント](#)」を参照してください。

SLI

「[サービスレベルインジケータ](#)」を参照してください。

SLO

「[サービスレベルの目標](#)」を参照してください。

スプリットアンドシードモデル

モダナイゼーションプロジェクトのスケーリングと加速のためのパターン。新機能と製品リリースが定義されると、コアチームは解放されて新しい製品チームを作成します。これにより、お客様の組織の能力とサービスの拡張、デベロッパーの生産性の向上、迅速なイノベーションのサポートに役立ちます。詳細については、「[AWS クラウドでのアプリケーションをモダナイズするための段階的アプローチ](#)」を参照してください。

SPOF

「[単一障害点](#)」を参照してください。

スタースキーマ

データベースの編成構造を意味し、1つの大きいファクトテーブルにトランザクションデータまたは測定データが保存され、1つ以上の小さいディメンションテーブルにデータ属性が保存されます。この構造は、[データウェアハウス](#)やビジネスインテリジェンスを用途とするように設計されています。

strangler fig パターン

レガシーシステムが廃止されるまで、システム機能を段階的に書き換えて置き換えることにより、モノリシックシステムをモダナイズするアプローチ。このパターンは、宿主の樹木から根を成長させ、最終的にその宿主を包み込み、宿主に取って代わるイチジクのつるを例えています。

そのパターンは、モノリシックシステムを書き換えるときのリスクを管理する方法として [Martin Fowler](#) により提唱されました。このパターンの適用方法の例については、「[コンテナと Amazon API Gateway を使用して、従来の Microsoft ASP.NET \(ASMX\) ウェブサービスを段階的にモダナイズ](#)」を参照してください。

サブネット

VPC 内の IP アドレスの範囲。サブネットは、1つのアベイラビリティゾーンに存在する必要があります。

監視制御とデータ取得 (SCADA)

製造分野において、ハードウェアとソフトウェアを使用して物理アセットと本番運用をモニタリングするシステム。

対称暗号化

データの暗号化と復号に同じキーを使用する暗号化のアルゴリズム。

合成テスト

ユーザーとのやり取りをシミュレートして、起こり得る問題を検出したり、パフォーマンスをモニタリングしたりすることで、システムをテストします。[Amazon CloudWatch Synthetics](#) を使用すると、こうしたテストを作成できます。

システムプロンプト

コンテキスト、指示、ガイドラインなどを提示して、[LLM](#) に動作を指示する手法。システムプロンプトは、コンテキストを設定して、ユーザーとやり取りするルールを確立するのに有用です。

T

タグ

AWS リソースを整理するためのメタデータとして機能するキーと値のペア。タグは、リソースの管理、識別、整理、検索、フィルタリングに役立ちます。詳細については、「[AWS リソースのタグ付け](#)」を参照してください。

ターゲット変数

監督された機械学習でお客様が予測しようとしている値。これは、結果変数のことも指します。例えば、製造設定では、ターゲット変数が製品の欠陥である可能性があります。

タスクリスト

ランブックの進行状況を追跡するために使用されるツール。タスクリストには、ランブックの概要と完了する必要がある一般的なタスクのリストが含まれています。各一般的なタスクには、推定所要時間、所有者、進捗状況が含まれています。

テスト環境

「[環境](#)」を参照してください。

トレーニング

お客様の機械学習モデルに学習するデータを提供すること。トレーニングデータには正しい答えが含まれている必要があります。学習アルゴリズムは入力データ属性をターゲット (お客様が予測したい答え) にマッピングするトレーニングデータのパターンを検出します。これらのパターンをキャプチャする機械学習モデルを出力します。そして、お客様が機械学習モデルを使用して、ターゲットがわからない新しいデータでターゲットを予測できます。

トランジットゲートウェイ

VPC とオンプレミスネットワークを相互接続するために使用できる、ネットワークの中継ハブ。詳細については、AWS Transit Gateway ドキュメントの「[トランジットゲートウェイとは](#)」を参照してください。

トランクベースのワークフロー

デベロッパーが機能ブランチで機能をローカルにビルドしてテストし、その変更をメインブランチにマージするアプローチ。メインブランチはその後、開発環境、本番前環境、本番環境に合わせて順次構築されます。

信頼されたアクセス

ユーザーに代わって AWS Organizations およびそのアカウントで組織内でタスクを実行するために指定したサービスにアクセス許可を付与します。信頼されたサービスは、サービスにリンクされたロールを必要なときに各アカウントに作成し、ユーザーに代わって管理タスクを実行します。詳細については、ドキュメントの「[Using AWS Organizations with other AWS services](#) AWS Organizations」を参照してください。

チューニング

機械学習モデルの精度を向上させるために、お客様のトレーニングプロセスの側面を変更する。例えば、お客様が機械学習モデルをトレーニングするには、ラベル付けセットを生成し、ラベルを追加します。これらのステップを、異なる設定で複数回繰り返して、モデルを最適化します。

ツーピザチーム

2枚のピザを分け合えることができるくらい小さな DevOps チーム。ツーピザチームの規模では、ソフトウェア開発におけるコラボレーションに最適な機会が確保されます。

U

不確実性

予測機械学習モデルの信頼性を損なう可能性がある、不正確、不完全、または未知の情報を指す概念。不確実性には、次の2つのタイプがあります。認識論的不確実性は、限られた、不完全なデータによって引き起こされ、弁論的不確実性は、データに固有のノイズとランダム性によって引き起こされます。詳細については、[深層学習システムにおける不確実性の定量化ガイド](#)を参照してください。

未分化なタスク

ヘビーリフティングとも呼ばれ、アプリケーションの作成と運用には必要だが、エンドユーザーに直接的な価値をもたらさなかったり、競争上の優位性をもたらしたりしない作業です。未分化なタスクの例としては、調達、メンテナンス、キャパシティプランニングなどがあります。

上位環境

「[環境](#)」を参照してください。

V

バキューミング

ストレージを再利用してパフォーマンスを向上させるために、増分更新後にクリーンアップを行うデータベースのメンテナンス操作。

バージョンコントロール

リポジトリ内のソースコードへの変更など、変更を追跡するプロセスとツール。

VPC ピアリング

プライベート IP アドレスを使用してトラフィックをルーティングできる、2つの VPC 間の接続。詳細については、Amazon VPC ドキュメントの「[VPC ピア機能とは](#)」を参照してください。

脆弱性

システムのセキュリティを脅かすソフトウェアまたはハードウェアの欠陥。

W

ウォームキャッシュ

頻繁にアクセスされる最新の関連データを含むバッファキャッシュ。データベースインスタンスはバッファキャッシュから、メインメモリまたはディスクからよりも短い時間で読み取りを行うことができます。

ウォームデータ

アクセス頻度の低いデータ。この種類のデータをクエリする場合、通常は適度に遅いクエリでも問題ありません。

ウィンドウ関数

現在のレコードに何らかの形で関連している行のグループに計算を実行する SQL 関数。ウィンドウ関数は、移動平均を計算したり、現在の行の相対位置に基づいて他の行の値にアクセスするといったタスクの処理に役立ちます。

ワークロード

ビジネス価値をもたらすリソースとコード (顧客向けアプリケーションやバックエンドプロセスなど) の総称。

ワークストリーム

特定のタスクセットを担当する移行プロジェクト内の機能グループ。各ワークストリームは独立していますが、プロジェクト内の他のワークストリームをサポートしています。たとえば、ポートフォリオワークストリームは、アプリケーションの優先順位付け、ウェーブ計画、および移行メタデータの収集を担当します。ポートフォリオワークストリームは、これらの設備を移行ワークストリームで実現し、サーバーとアプリケーションを移行します。

WORM

「[Write-Once-Read-Many](#)」を参照してください。

WQF

「[AWS ワークロード資格フレームワーク](#)」を参照してください

Write-Once-Read-Many (WORM)

データを1回のみ書き込むことで、データの削除や変更を防ぐストレージモデル。承認済みユーザーは、必要な回数だけデータを読み取ることができますが、変更することはできません。このデータストレージインフラストラクチャは、[イミュータブル](#)と見なされます。

Z

ゼロデイ 익스プロイト

[ゼロデイ脆弱性](#)を悪用した攻撃 (一般的にマルウェアによる)。

ゼロデイ脆弱性

実稼働システムにおける未解決の欠陥または脆弱性。脅威アクターは、このような脆弱性を利用してシステムを攻撃する可能性があります。開発者は、よく攻撃の結果で脆弱性に気付きます。

ゼロショットプロンプト

[LLM](#) にタスク実行の手順は提示するが、実行のガイドとして役立つ例 (ショット) は提示しない方法。LLM は、事前トレーニング済みの知識を使用してタスクを処理する必要があります。ゼロショットプロンプトの有効性は、タスクの複雑さとプロンプトの品質によって異なります。「[数ショットプロンプト](#)」も参照してください。

ゾンビアプリケーション

平均 CPU およびメモリ使用率が 5% 未満のアプリケーション。移行プロジェクトでは、これらのアプリケーションを廃止するのが一般的です。

翻訳は機械翻訳により提供されています。提供された翻訳内容と英語版の間で齟齬、不一致または矛盾がある場合、英語版が優先します。